

睡眠姦CG集

眠っている 教え子を…

もし、自分の教え子がいつでもどこでも
スッと眠りに落ちてしまう不思議な体質で
むちむちのエッチな体をしていたら…♥♥♥

基本CG15枚+α 本編 **166**枚

©怪しいサイハイ音楽隊

俺は小林一郎（33）
公立の学校で働いている教師。

生徒からは特に人気があるわけでもなく、とにかく普通。
ませた生徒たちに変に突っ掛かられることもなく
いい立ち位置で教師をやらせてもらっている。

そんなTHE・普通な俺も
一応自分のクラスのこととは少し気にかけていて
よく生徒たちの相談を受けたりもしていた。

その中でも、特に――



『小林先生』

『おお、竹内か。どうした？』

ハッ

ハッ

グニャッ

グニャッ

グニャッ

グニャッ

俺のクラスの生徒『竹内 瑛子』

どうしてもかは分らないが俺に憧れて教師を目指しているらしく
最近は特に親密な関係の生徒だ。

親密といっても決して恋愛感情などではなく、
あくまでも生徒と教師という立場での話。

昔、この学校でも生徒に手を出して
懲戒免職になった教師がいたりもしたし…
そのあたりはしっかりわきまえている。



それはそうと、この彼女について。

むっちりした巨乳なことを除いては
とても立派な優等生なのだが…

ハッ

ハッ

グイッ

グイッ

グイッ

グイッ

いつでも眠ってしまふことで有名な、
ちよつと困つた生徒だった。

「今日も放課後に勉強教えてもらいたいですけど…」

「もちろんそれはいいんだけど。
お前また授業で居眠りしたらしいな？」

「あ、はい…。
でもその分は家で予習してますよー！」



「俺はお前が家でも努力してるのを知ってるから
居眠りも許容してるけど…職員室でちょっと
悪い噂になってるから気を付けろよ?」

「えへへ…はい。でも先生が私のことを
分かってくれてたら十分ですよ」

「はあ…。お前は普段の態度は真面目だし成績自体も悪くない。
授業中に起きてるだけでも他の教師からの評価も上がるぞ?」



「うっ…私もできれば起きていたいんです…
どうしても睡魔に勝てなくて…。
でも、絶対に志望校に受かって
先生みたいな生徒思いの教師になりますからね！」

「ははは…そんなこと言うてくれるのお前だけだよ。
まあ、頑張りすぎないように頑張れよ」



嘘か本当かはともかく、
自分のような教師になりたいと言われて
悪い気持ちになるはずがない。

だから彼女のごことは他の生徒よりも気にかけていたし
志望校に受かって夢を叶えてほしいと、純粋な気持ちで思っていた。



彼女に…

あんなことをしてしまうまでは…。



放課後、俺は竹内との約束通り
課外授業のため教室へ向かった。

職員室での事務作業で
少し遅れてしまったのだが…

「ああ…やっぱり寝てる…」

彼女はぐっすりど、寝息を立てて眠っていた。

おはね…

すやま…

「おい、勉強はいいのかー？
このまま寝てるなら職員室に戻るぞー？」

「すや…すや…」

（はあ…まったく…仕方ないやつだ。
このまま放っておくのも可哀想だし
起きるまで少し待ってやるか…）

おはね…

おはね…



「…気持ちよさそうに眠るなあ…
そりゃこんな本気で居眠りされたら
真剣に授業やってる教師は怒るわ…」

おはあ…

すずま…

「でも本当は真面目でいい子なんだから…
担任の俺はこいつを守ってやらないとな」

（…にしても…）

おはあ…

おはあ…



(…いつも思ってたけど…
竹内…エロら体してるなあ…)

(これ、何カップくらいあるんだ…？
まだ学生なのにこんな大きい胸で…)

ズンズン

ズンズン

「い、いかんいかん！俺は何を考えているんだ！
大切な生徒をそんな目で見てはいけない……！」

すまね...

すまね...

「さっさと起こして勉強に付き合ってやるか。
起きるか分からないけど揺すってみるか」

「おい、そろそろ起きろ...わっ！」

「し、しまった！足がもつれて...っ！」

おん...?

おん...?







（…ぐ、ぐっすり眠ってる…！
よかったー！マジで人生終わるところだった…）

किन्तु...

下女...

（まあ起きちゃったとしても
言い訳すれば分かってくれるとは思っけど…）

（ふう…冷静になろう、冷静に…）

(柔らかかったなあ...)

(すげえ柔らかかった...)

おっぱい...

おっぱい...♡

すず...

(...全然起きる気配ないな...)

(そういえば、どんなに居眠りに厳しい教師でも
彼女のことは授業が終わるまで放っておくらしい...)

(...本当に起きないのか...?)



（…もう一回触りたいな…）

（…そ、そうだ、竹内なら
言い訳すれば分かってくれる気がする…）

すま…

すま…

（俺のことをやけに好いている感じだし…）

「…お前なら分かってくれるよな…？」

アハハ…

アハハ…



今思えば、この時から
俺はおかしくなってしまったんだと思う。

すずな...

すずな...

アキコ...

アキコ...





「グラビアとかAVでしか見たことないくらいデカい…!!
しかも揉むたびに手に吸い付くし…!!
こんなおっぱいをただの学生が…
しかも俺の教え子が持っているなんて…!!」

おっぱい…

デカい…♡

すま…

デカい…♡

おっぱい…♡

おっぱい…♡

おっぱい…♡

「(奇跡だ…!!
きっと俺が真面目に教師をやってきたから
神様のご褒美をくれたんだ…!!)」

おっぱい…♡





《全然起きないし……!》

《揉んでも揉んでも全然起きる気配がない……!》

おは……

す……

「今のうちに一生分おっぱい揉んでおこう……!」

(あ……気持ちいい……最高……)

ぽん……

ぽん……

ぽん……

ぽん……

お

お



「ふふ...ふふ...」

(...ふふ...)

ふふ...

ふふ...

(...こんなにぐっすり眠っているなら...)

ふふ...

ふふ...

ふふ...♡

ふふ...

ふふ

ふふ

「え、エロっ……下半身が
ムテムテしてると思ってたけど
想像以上にムテムテじゃないか……！」

ムテムテ

110
110
カア…♡

「(白いパンツも清楚な感じで……
欲望を掻き立てる……!)」

「……はは……す、すごい体だ……」



(っつらうか...
俺、結構ヤバいところにいる...んー...
いや竹内なら分かってくれる...!)

アハハ

110 カア...♡

(あゝエロい...エロすぎ...
...ちよっとだけ触っちゃおうか...?
さすがにそれは起きるか...?)

アハハ

(あれ...なんか、まOJのムンムン
ちよっと湿ってる...?)

「……！」

ま、まさか俺が胸を触ったから…?!
え?…女の子って寝ても濡れるの?!…♡

（気になる…濡れるのか?…）

アハハ

110カア

（…これは純粋な興味だ…
決して性的な意味ではなく…
そうだな…保健体育の勉強ってことで…
起きた時の言い訳はこれだ…!）

アハハ

『そういうわけだから…
…ちよっと触るからな…』

（お、お〇う…!）



『うわ〜……♡ここも柔らかい……♡
こんな柔らかなおまんこだったら
ち○こ挿れるたびに擦れて
めちゃくちや気持ちいいだろうなあ……♡』

（エロいなあ、エロいよ竹内……！
普段見えてないところもこんなにエロいなんて
どうなってんだよお前の体は……！）

「…お？」





「す、すごい…!」

「おいおいおい! 本当に濡れてきたぞ?!
女の子は寝ても感じるんだ! やったぜ!」

ア…♡

ズ

ア…♡

ハ

い

う…♡

ア…♡

ズ

「しかもまだ全然起きなさそうだぞ…!!
これは…!」

「…できる、か…♡…」





＃＃＃

＃＃

＃＃

「...＃＃＃...」

＃＃

＃＃

＃＃

「...＃＃...」

＃＃

＃＃

＃＃

＃＃

＃＃

＃＃

＃＃

俺はズボンを脱いで…

彼女を机の上に仰向けで寝かせた…。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

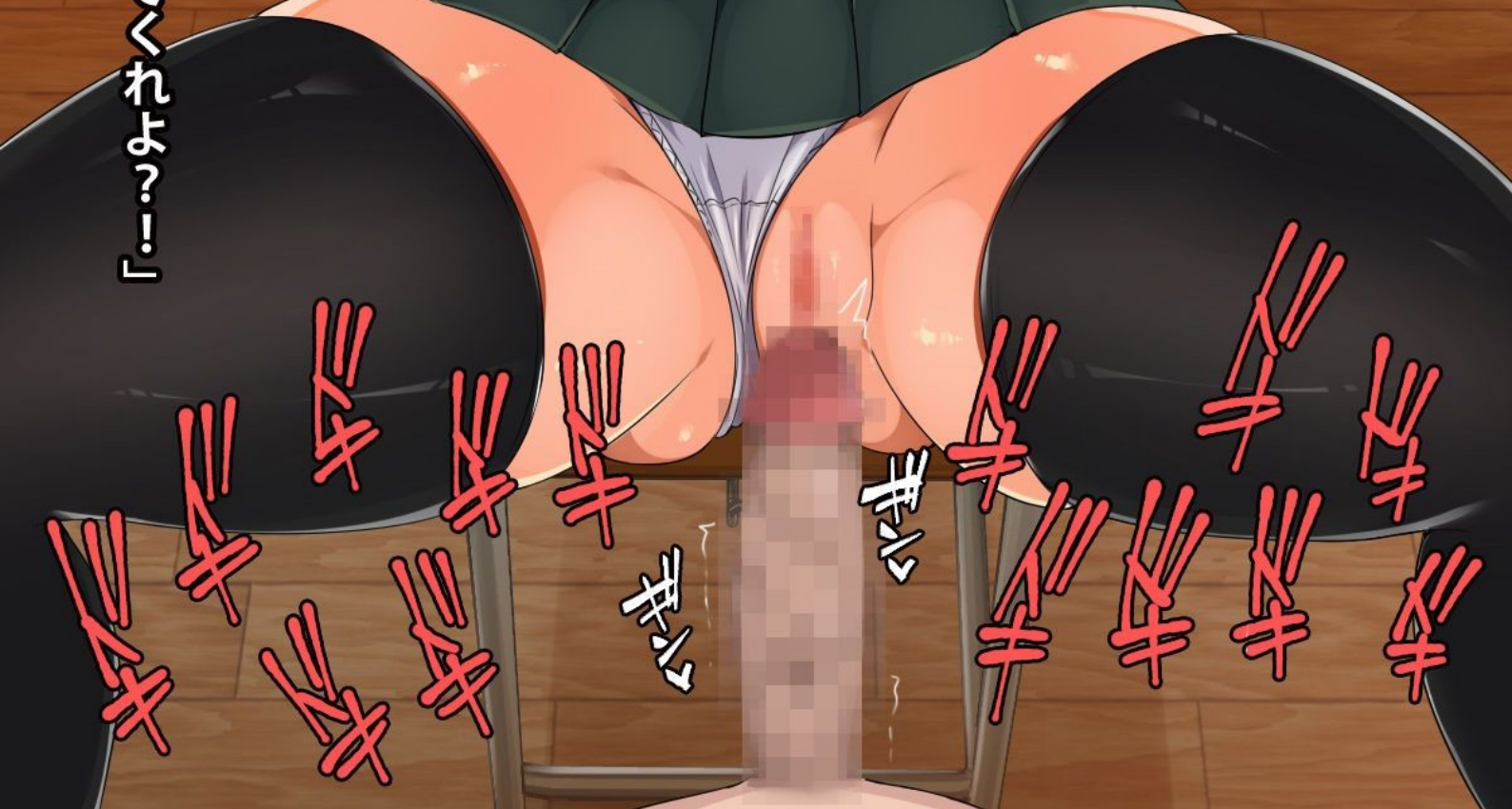
「はあ、はあ、はあ…」

（よかった…！動かしたけどまだ寝てる…！）

「いびき…」

「竹内、寝てるんだよね？！
聞こえてないよな？！」

「い、今からすることは
起きてても絶対に誰にも言わないでくれよ？！」



そして俺は…今にも暴発しそうなガチガチのち○こを
教え子の柔らかなおま○こに狙いを定めて…

いーん…

「ふ、ふんぞ…！挿れるぞ…っ！」





「んっっ…♡♡」

(な、なんだこのま○っ…♡「びゅーっ」…
すげえ…っ♡♡♡)

んっっっ

んっっ

…♡

(どんなオナホよりも気持ちいい…♡♡
学生のま○っってこんな気持ちいいのがよ…!♡)

(中がとろとろに濡れてて…♡
ぷりぷりしてて、締めまりがあっ…♡
ち○こにどろどろ絡みついてくる…っ♡♡♡)



「竹内っ…♡竹内っ…♡♡」

《全っっっっっ然起きない!!!!》

「いーん…」

「っ…♡♡♡」

んっっっ

んっっ

…♡

《うわああ最高だあ…!!
神様ありがとっ…!!!!》

《とろとろ…っ♡

中が全部とろとろすぎっ…♡♡♡》

んっ

んっ

んっんっ
んっんっ
んっんっ
んっんっ
んっんっ
んっんっ
んっんっ
んっんっ
んっんっ
んっんっ

しかし、最高のおま○こを味わう余裕はなく…
教え子を犯している背徳感で大興奮…
すぐに射精しそうになって…

「いーうー…」

「うー…」

「うー…」

「うー…」

「うー…うー…うー…うー…うー…」

「…中に出した方が外に出すよりも気付かないか…?」

「そ、そうだ! そうだよな…!」

「中に出した方がバレないはずだ…! よし…!」



「な、中に出すぞ…っ！
全部受け取れよ…っ！」

「♡...」

んんん

エ



「い、いくっ…！
本當にいくぞ…っ！あっ…！」

...



W

卷之六

オオオオオ

女

##

世

三





「……ん……ん……ん……」

「……♡」

「……ん……ん……ん……」

「……ん……ん……ん……」

「……ん……ん……ん……」

……♡

「……あ……あ……あ……」

「ああああああああ……ん……ん……ん……」

「や、やってしまった……ん……ん……ん……」

「……ん……ん……ん……」

「……ん……ん……ん……」

「……ん……ん……ん……」

...
הנה

47

三下二下！
搞定！

焦って乱暴に拭いてしまったが
やはり竹内は起きなかった。

そして…時間にして十分くらい経った頃だろうか？

鬱々としている俺の気なんてお構いなしに
彼女はゆっくりと目を覚ました。



「……」

「……」

「……」

「……」

「んあ……?……あ!

せ、先生!すみません!」

「……った、竹内……」

「ごめんなさい！私また寝ちゃった…」

「えっ…！あっ…ああ…」

（っ…バレてないな？！まだ大丈夫だな？！）

おせ

おせ

「うう…なんで私ってこうなんだろう…」

（頼む！頼む！おい竹内！
知ってても知らないフリをしてくれ！
気付いていても知らないフリを…！）

おせ

おせ

グビッ

しゅっ

「約束してたのにすみませんでした…」

「いや…別にダイ、ジヨ…ブ…」

…それより…その、体は変な感じしない…？」

おせ

おせ

「えっ…う、いえ、特には…」

おせ

「そう…。まあ…今日は早く家に帰りなさい…。
暗くなると…危ないから…」

「はい…あの、眠ったのに図々しいかもしれませんが
明日の放課後もお願ひしてもいいですか…？
絶対に起きているように頑張ります…」

しゅっ

「…いっよ…。」

あと…先生は怒ってないから安心してくれ…」

ハハ

ハハ

グニャッ

グニャッ

グニャッ

グニャッ

「よ、よかったあ…！ありがとうございます…！
やっぱり先生は私の憧れです！」

「…はは…」



この日の夜は
不安で一睡もできなかった…。

ハハ

ハハ

クハハハ

クハハハ

グハハハハ

グハハハハ





そっけりっ

しゅっ

しゅっ

しゅっ

しゅっ

しゅっ

しゅっ

「先生、おはようございますー!」

(あっ…竹内っ…)

ハハ

ハハ

「お…おはようございます!」

「…先生、どうも具合が悪いんですか?」

「あっ、いや…大丈夫だけど…」

グニャッ

グニャッ

グニャッ

グニャッ



「そうですか…？あ、昨日はすみませんでした。
今日の放課後もよろしくお願いします！」

(ご、これは…全く気付いていない…？！)

(よ、よかった…！よかった…！！！)

昨日、眠っている竹内を犯してしまった俺だったが
普段通り、何も知らない様子の彼女を見て
俺はすっかり開き直った！

しゅっしゅっ

しゅっ

しゅっ

おっ

おっ

グズグズ

「ああ、よろしく！」

…ちなみに、お前昨日の放課後は何時から寝てた？」

「え？えーと…たしか最後に時計を見たのが16時くらいだったので…
わ、2時間も寝ちゃってたんですね…えへへ」

「ハ」

「ハ」

ぷんぷん

ぷんぷん

グズグズ

しゅっしゅ

（そうか…2時間も眠るのか…2時間も…）
「…その、寝てる時は何も意識はないんだよね？」

「ええ、はい…なんてそんなこと聞くんですか？」

「なんでもないよ。お前、今日は居眠りするなよー?」

ハハ

ハハ

「はい!放課後は眠りません!」

「放課後だけじゃなくて一日中起きてろよー!」

グハッ

グハッ

グハッ

グハッ



もし、今日も眠ったら…

ニム

ニム

そんなことを考えながら、
悶々とした気持ちで一日を過ごした…。

グニャッ

グニャッ

グニャッ

グニャッ



放課後。

昨日、竹内が眠くなったと言った時間を狙って
俺はわざと遅れて教室へ向かった。

「…来たよ」

「あ…せんせ…」

竹内は寝落ち寸前だった。

「あー、お前眠たいんだろ？」

「…いえ…起きてるって…約束しましたし…」

「いいよ、また明日も放課後付き合えるから」

「………はい………すみませ………」





「.....」

「...竹内？竹内ー？...寝たか...？」

おぼろ...

すみ...

「...おや...」

（ね、寝た...！
こんな思った通りに物事が進むとは...！）

おぼろ...

おぼろ...



(((...わん...
今日も起きなうて...))

わん...

わん...

わん...♡♡♡♡

わん...

わん...

わん...

わん...

(これやりたかったんだよ! フェラチオ...! ♥
今日は朝からムラムラしすぎて
何度オナニーしそうになったか分からない...!)

この欲望...全部お前に
ぶつけさせてもらっからな...っ...

「さ、さあね...」





「あー...たから...♡」

くら

くら くら くら くら

くら

きゅんきゅん

きゅんきゅん

きゅんきゅん

きゅんきゅん

きゅんきゅん

きゅん...

きゅん...

（いじ...めい...ちや...あ...持...ち...ら...ら...♡
口の...中...ま...ま...の...ん...な...ら...ら...♡...♡）

きゅんきゅん

「ん...♡
ん...♡」

(寝ている教え子の口に、強引にち○こねじ込んでる…っ！
俺、ありえないことやってる…っ！)



(バレたらただじゃすまないけど…!!
せつかくこんなチャンスがあるのに
やらない男がいるわけないだろ…っ！)

「回から抜いたり出したり…っ♡
全然起きないし、生徒じゃなくてただのロオナホっ…♡」

「んっ」「んっ」「んっ」

「んっ」「んっ」「んっ」
「んっ」「んっ」「んっ」
「んっ」「んっ」「んっ」

「んっ」「んっ」「んっ」
「んっ」「んっ」「んっ」
「んっ」「んっ」「んっ」

「んっ」

「んっ」

「ま〇ごみたいに気持ちいいフェラチオ…♡
最高っ♡気持ちよすぎて射精するのがもっ…たいない…♡
もっど…♡もっど味わいたい…っ♡」

「んっ」「んっ」「んっ」
「んっ」「んっ」「んっ」
「んっ」「んっ」「んっ」

「おおおお…♡
お…おっ…っ♡」



(えっ…?!…す、吸い付いてきてる…っ?!…)

(お、おい、本当に寝てるんだよね?!
なのにこんなスケベなフェラチオしてくるなんて…っ♡♡)

んぼっ♡んぼっ♡んぼっ♡

す…

んぼっ♡
んぼっ♡
んぼっ♡
んぼっ♡
んぼっ♡

ちゅっ♡ちゅっ♡
ちゅるるっ♡♡♡♡♡

(なんなんだよお前は…っ♡♡
こんなエロい生徒だったのか…っ♡♡)

(「すげえエロい音立ててるし…♡♡
柔らかい口の中が俺のち○この先っぽに
ピッタリ張り付いて吸ってくる…♡♡♡♡」)

(寝ながらこんな下品なフェラチオするなんて…っ！♡
こいつ、天性のエロ才能を持ってるんじゃないのか…♡♡♡)

ぢゅっ♡ぢゅっ♡ぢゅるっ♡ぢゅるっ♡
ぢゅっ♡ぢゅっ♡ぢゅるっ♡ぢゅるっ♡

んぽっ♡んぽっ♡んぽっ♡
ぶぽっ♡ぽっ♡♡♡♡

ぢゅっ♡ぢゅっ♡ぢゅるっ♡
ぢゅっ♡ぢゅっ♡ぢゅるっ♡

「ああ、イキそうっ…っ♡♡イくよ…っ♡♡
寝ている教え子に吸い出されていくっ…♡♡♡♡」

ぢゅっ♡ぢゅっ♡ぢゅるっ♡
ぢゅっ♡ぢゅっ♡ぢゅるっ♡



「っ…♡はあっ♡はあっ…♡」

ドゥン
ドゥン

ぴんぽん

ストロボ…

ぴんぽん…

ずず…

ずず…

「やば…竹内のフェラチオ…っ
クセになりそうだ…」

グニャー…
♡♡♡

「こんなに気持ちいいフェラチオだったら
毎日してほしくなる…っ」



もう俺は彼女のアマリのエロさにやられて
完全に脳みそがマヒしている状態で…

眠っている彼女を犯すことは
悪いことではないように感じていた。

「竹内ま〇こ……っ♡♡♡♡ やっぱ最高っ♡♡♡♡」

「(昨日の正常位とは違う感じで、ち〇こが擦れて奥まで届く……っ♡ た、確かバックで奥まで届きやすいのはま〇こが下付きの女、とか言うんだっけな……っ)」

1

七

おたけ



Top

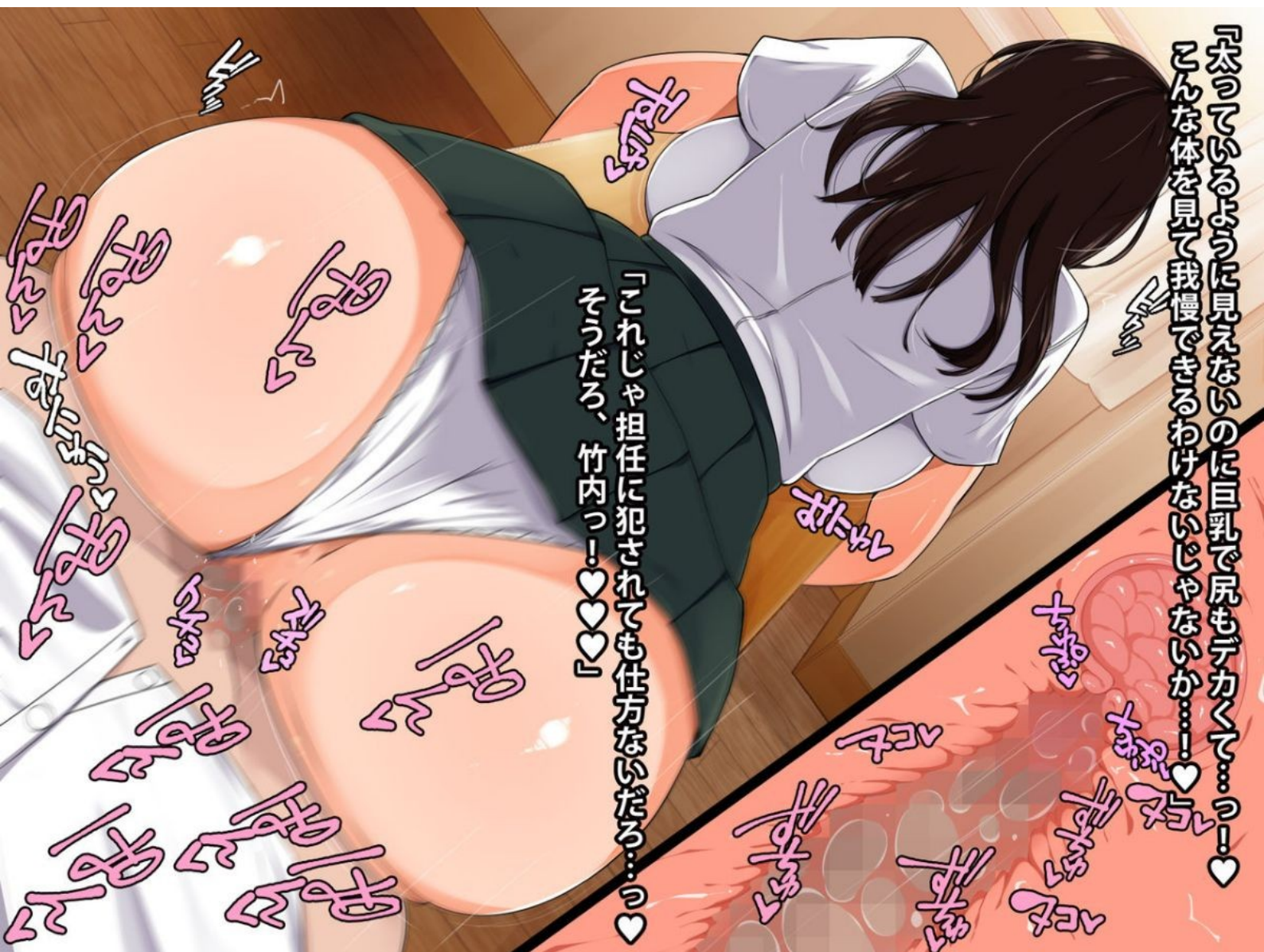
73v

愛

アキラ

『太っているように見えないのに巨乳で尻もデカくて…っ！♡
こんな体を見て我慢できるわけじゃないじゃないか…っ！♡』

「これじゃ担任に犯されても仕方ないだろ…っ♡
そうだろ、竹内っ！♡♡♡」





おれ

三

701157

73v



七

リベンジ

愛

For

A large, stylized illustration of a peach with the word '桃子' (Peach) written in pink and white calligraphic characters around it. The peach is a vibrant orange-red color with a white highlight on its upper left. It is surrounded by several instances of the characters '桃子' in a dynamic, swirling arrangement. Some characters are pink with black outlines, while others are white with black outlines. The background is a warm, brownish-orange gradient.

事が終わり、席に彼女を戻して十分後…

すずな…

すずな…

すずな…

すずな…





「.....あ.....あ.....」

10...4...

「...おっ、起きたか?」

おっ...?

おっ...?

「あああ…す、すみません！昨日に続いて…！」

（よ、よし！大丈夫だな…！）
「はは、いいよ。その代わり今日もしっかり家で勉強だぞ？」

おせ

おせ

「うう…は、はら…」

「気にするな、またいつでも教えてあげるから」
（明日でもいいぞ…）

おせ

おせ

グズグズ

しゅっ

こうして味をしめた俺は、この日以降
学校で真面目に教師の仕事をしながらも

眠っている竹内をもっとエロく犯す方法を
日常的に考えるようになっていった。

ある日、俺は体育教師に
竹内のことを尋ねてみた。

「すみません、うちの竹内瑛子は
体育の授業中はどんな感じですかね…？」

「ああ、竹内さんね…。彼女、少しうとうとしてると思ったら
運動してる最中でもスッと寝ちゃうことがあるよ…。
なんというか気絶みたいな感じだからこっちとしては
いつもハラハラしていてねえ…」

「そうですか…いつもご迷惑おかけしてすみません。
今日は体育の授業って3限でしたよね？
その時間は空きなので、終わった後に私が迎えに行きますよ」

「おお、それは助かります。
それではすみませんが今日はよろしくお願いします。」

(よ、よし…
これで今日も…！)

その後、体育教師には少し怪しまれたが
俺はスク水のまま寝ている竹内をなんとか回収し…

彼女がいつもはいているニーソックスをはかせた。

いっしょに



《やった…やったぞ！この水着姿が見たかったんだ…！
ただでさえエロい体をしてくるせに
スク水でムッチリ感が強調されてさらにエロくなってる…！》

《ニーソックスもばっちりはかせたし…！
これで男を興奮させるための夢の着エロ…！
…まさかそれを自分の教え子にさせることができるなんて…！》



「つていうか俺のクラスの男子、竹内のこんなエロいスク水姿
いつも見てんのかよ…！マジで羨ましすぎるだろ…。
毎日オカズにされてるんだろ…うなあ…。
うん…俺のクラスの男子はプール期間中は絶対に竹内で抜いている。
間違いない」

「はあ…簡単にこんなエロい体を堪能できるなら
俺も体育教師を目指せばよかった…」

「ま、それは置いといて…
はやくこのデカ尻を味わうか…♡」

「いっしょっ♡」

「ん…♡」

「みゅっ♡」

「みゅっ♡」

「ぽっ♡」

「みゅっ♡」

「みゅっ♡」



「ああ〜…いい♡
自分よりデカい尻にち○ぽ擦り付けるのって♡
なんでこんな気持ちいいんだろ…♡♡」

ん〜ん〜ん

みゅっ ぽんっ

みゅっ

ぽんっ

みゅっ ぽんっ

んんん

んんん

んんん

みゅっ ぽんっ

みゅっ ぽんっ

「というか俺、成人男性だぞ?!
俺より尻がデカいっておかしいだろ…!
その事実だけで興奮してち○ぽがもっと硬くなるわ…♡」



「俺のガチガチのち○ぽ…♡お前のムチムチの尻肉に挟まれて
いきそうになってるんだぞ…♡わかるか…?♡♡」

「んう…♡♡」

あーっ
くっくっくっ

ググググ
ググググ

ん…ん…ん

ん…ん…ん

ん…ん

ん…ん

ん…ん

ん…ん

ん…ん

ん…ん

ん…ん

ん…ん

ん…ん

ん…ん

ん…ん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

「俺、もう射精の準備しちゃつてるんだよ♡
わかるよな？♡カウパッドだだ洩れで
滑りがすごくよくなってるもんな？♡」

んんん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

「お前のスク水♡俺の精子で
べちゃべちゃに汚してあげるからな♡
嬉しいだろ？♡ちゃんと喜んでくれよ？♡」

ぽんぽん

ぽんぽん

「んんん、うんうん♡♡♡」



まじで...♡

《上から谷間に向かってチ○ポ突っ込んでみたけど
これは大正解...♡》

744♡

みさ♡

みさ♡
みさ♡

744♡
みさ♡
みさ♡

みさ♡
みさ♡

みさ♡

みさ♡

744♡

744♡

みさ♡

みさ♡

みさ♡

《スク水で締め付けられてすげえ乳圧がかかってる...♡♡
こんな乳圧ってありかよ...♡♡♡》

まじで...♡

(しかもこれなら竹内のエロい鼠径部も拝めるし...♡
パイズリしながら質の高いオカズでオナニーしてるみたいな...♡)

Q4

せにい

みかり

おちち

おちち
おちち
おちち

おちち...♡

おちち

Q4

おちち

おちち

(なんかすげえ自分勝手に
教え子の体使ってる感じがして興奮する...♡)



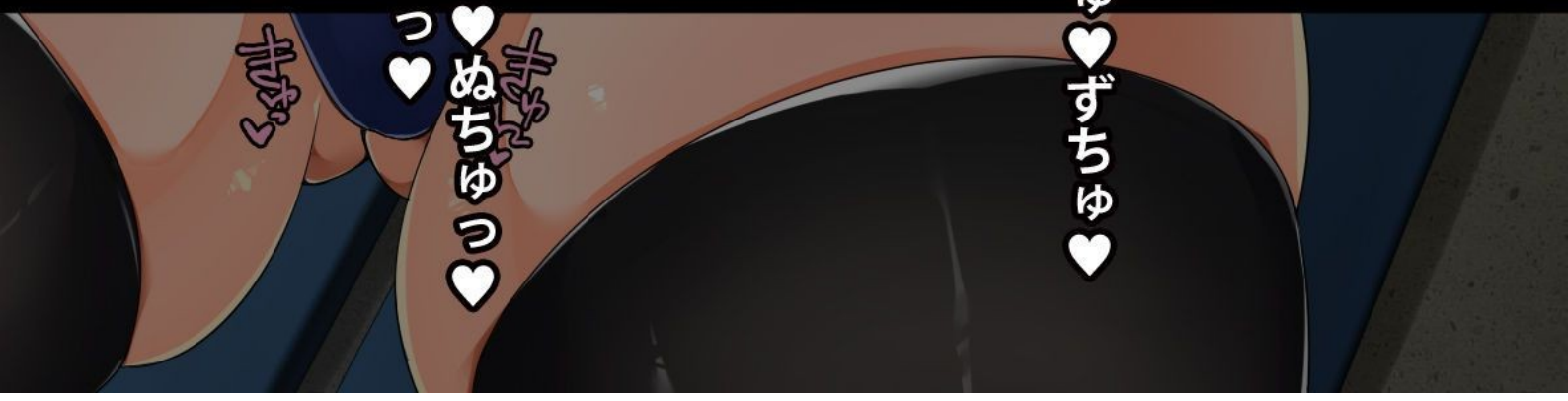
（う、うわ♥これで出したいっ...!♥
おっぱいの一番奥まで突っ込んで
思いっきり射精したい!♥♥）

（亀頭擦れるのいい...っ♥♥
竿もおっぱいの乳圧で潰されてっ♥
おま○ごと違うよさがあるっ♥♥♥）



ずちゅ♥ずちゅ♥ずちゅ♥

ずちゅ♥ずちゅ♥ずちゅ♥
ぬちゅっ♥ぬちゅっ♥



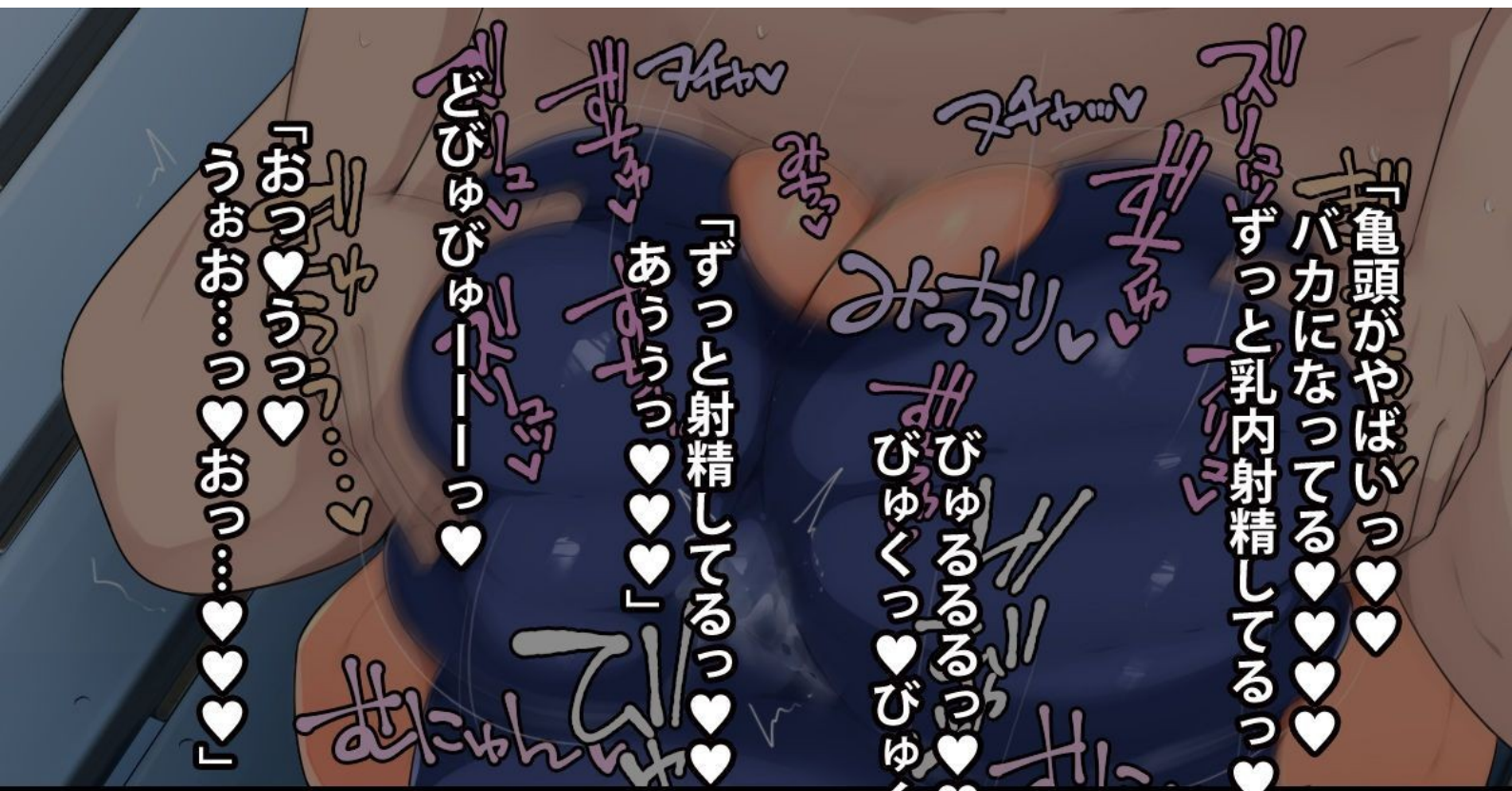
いっくっ♡♡」

ぱちゅ♡ぱちゅ♡♡

ずちゅ♡ずちゅ♡ずちゅ♡ずちゅ♡

「教え子のムチュチしたエッチなお股を
生オカズにして射精するっ♡♡乳内射精するっ♡♡出るっ♡♡♡」





「亀頭がやばいっ♡♡♡
バカになってる♡♡♡♡♡

ずっと乳内射精してるっ♡♡♡♡♡

びゅるるるっ♡♡♡♡♡
びゅくっ♡びゅくっ♡

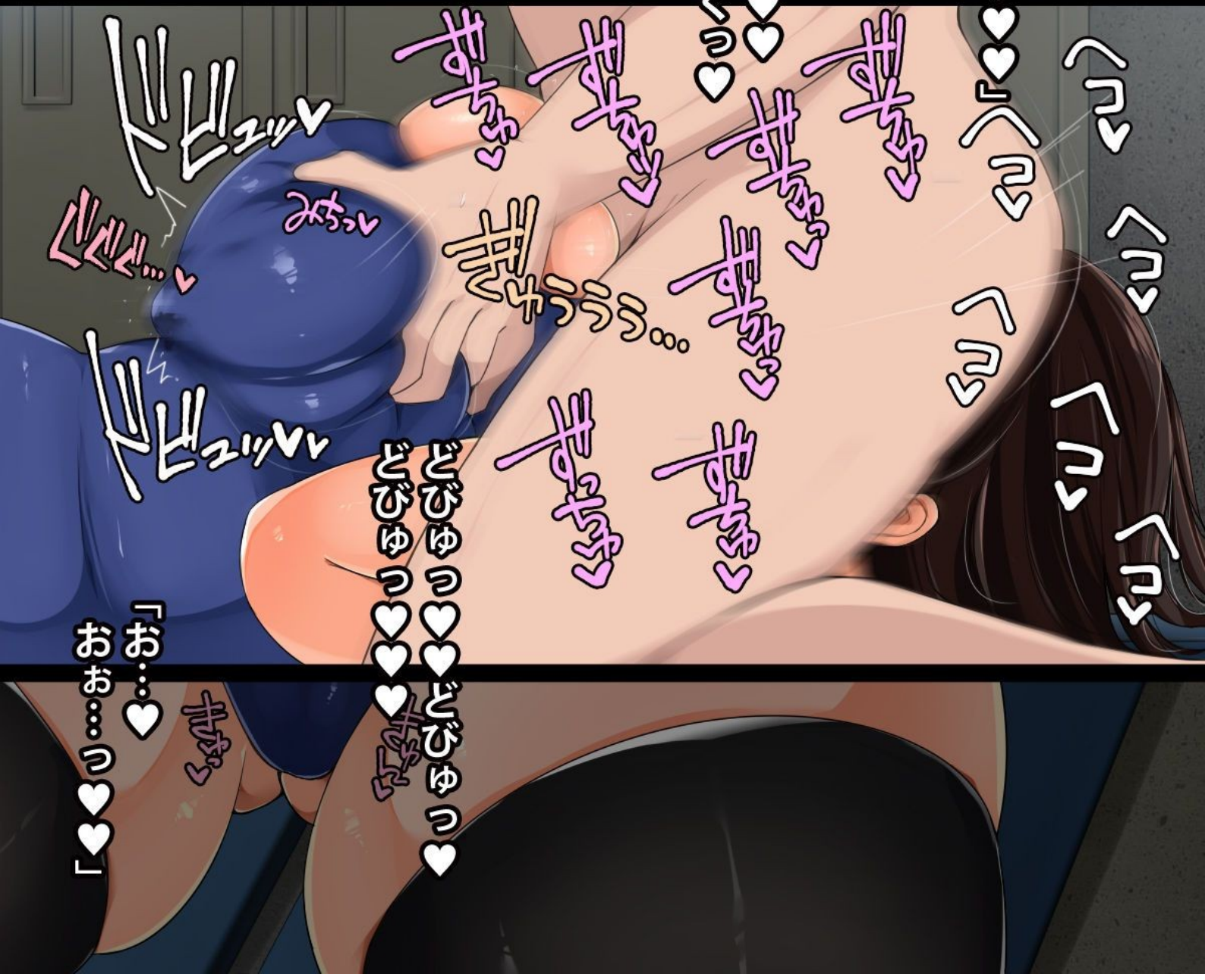
「ずっと射精してるっ♡♡♡

あううっ♡♡♡♡♡」

どびゅどびゅーっ♡

「おっ♡うっ♡

うおお…っ♡おっ…♡♡♡♡♡」



くっくっくっくっくっ

くっくっくっくっくっ

びゅるるるっ♡♡♡♡♡

びゅるるるっ♡♡♡♡♡

びゅるるるっ♡♡♡♡♡

びゅるるるっ♡♡♡♡♡

どびゅどびゅっ♡♡♡♡♡
どびゅどびゅっ♡♡♡♡♡

「お…♡

おお…っ♡♡♡♡♡」



「ふう、ふう…♡
さっきはマジでいきすぎて
頭おかしくなりそうだったぞ…♡」

「担任をそんなひどい目に合わせる悪い生徒は
しっかりとお仕置きしてやるからな…♡」

ぽろぽろ

ぐちゃぐちゃ

ぽろぽろ

ぽろぽろ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ



「この...
エロ生徒がっ...!♡♡♡」

ふふふふふふ♡♡♡♡♡

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ニャー

ぐわ

ねえか…っ♡♡♡

いっ
しん







「腰振り止められないっ
こんなエロい体抱いてるのにピストン
止めたらもったいないっ♡♡♡」

「...ん...♡♡」

「少しでも多く腰振って
お前のお●んこたくさん味わうからな♡♡」

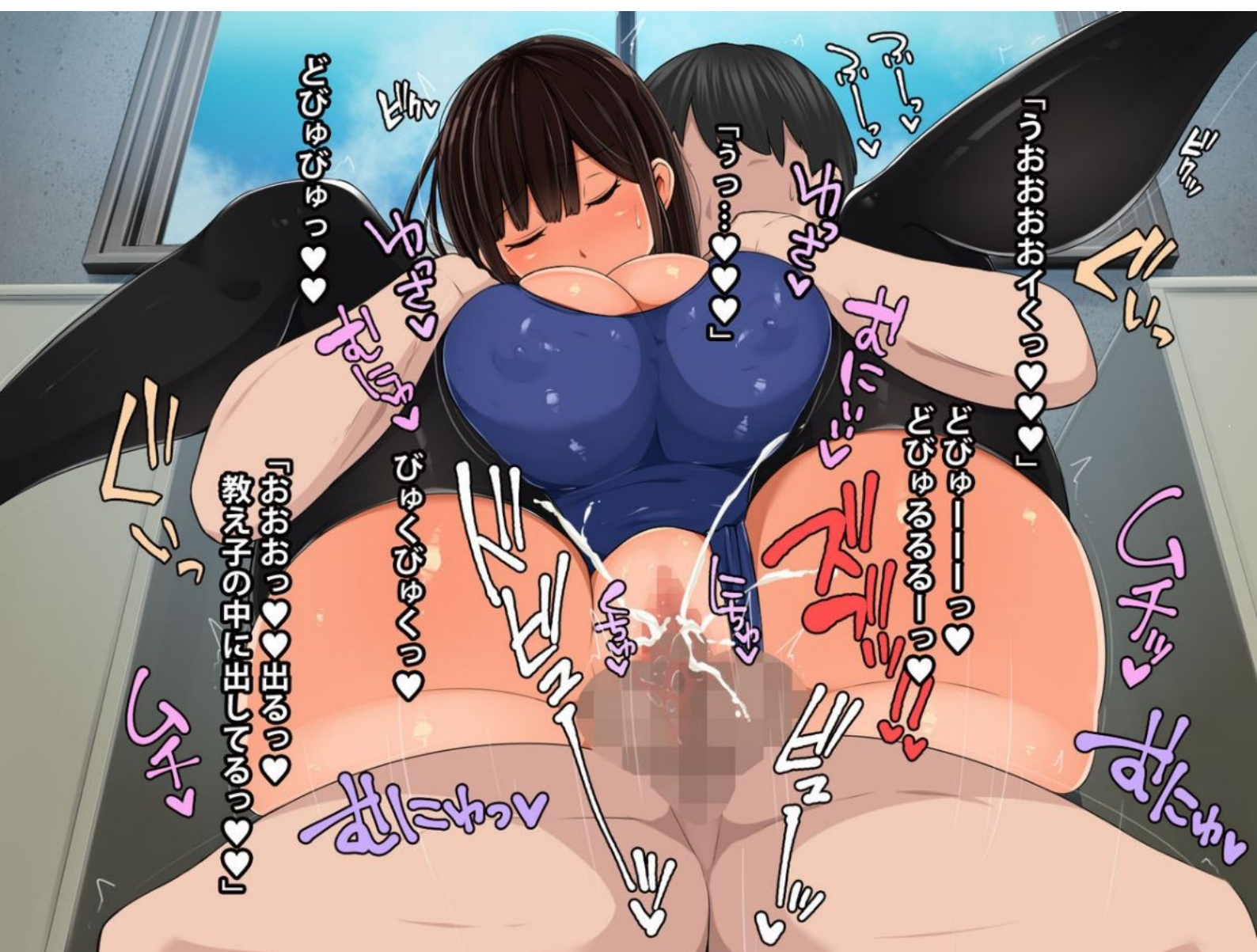
「あく気持ちいい♡♡♡
お前の中に出す♡♡♡♡♡
まだ午後も授業あるけど
どっぶり中出しする♡♡♡♡♡
全部受け止めるよ♡♡♡」

ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡
ずっちゅ♡ずっちゅ♡



「奥で出すっ♡もつと奥でっ♡
おま○んこの奥気持ちいいっ♡♡♡
尻肉押しつぶして奥で出すっ♡♡♡♡」

♡ルルル♡

♡♡♡♡♡



♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

「おおおっ♡♡最高♡♡♡
教え子おま○こハメっ♡
生中出しっ♡♡♡♡」

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡





「…大切な教え子が、今日の午後は
俺の精子をマ●コに入れたまま授業を受けるなんて…っ♡
背徳感で頭がおかしくなりそうだよ…っ♡♡♡」

「うっ♡」

「うっ♡…♡…♡…♡」

「うっ♡…♡…♡…♡」

「うっ♡」

「うっ♡」

「うっ♡」

「うっ♡」

「うっ♡」

「うっ♡」

「うっ♡」

「うっ♡」

「うっ♡」

「うっ♡」

寝ている竹内を犯し始めてから数日：

俺は放課後だけではなく、他の教師の授業中でも彼女が寝ているときは回収するようになった。

「あの、すみません。
うちの竹内は今日も寝てますか...?」

「ああ、小林先生...いつも通りですよ」

「はあ...」

「すみ...」

「実は今朝少し具合が悪そうだったんですよ。
心配なので保健室に連れて行ってもいいでしょうか...」

「そうだったんですか?じゃあすみませんが
よろしく願います」

「おはよう...」

「おはよう...」



なぜなら、寝てしまえばどこへでも運べて
誰にも見つからない場所で犯せるから!!♡

やりたい場所で...やりたいように
教え子に中出しできるから!!♡♡

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

エビッ

(普段はキラキラした目で俺のことを見ていて…♡♡♡
「先生、先生」って可愛い声で呼んでくれる竹内…♡♡♡)

(それが、眠っている時だけ俺専用の肉オナホに変わる…♡♡♡
このギャップがたまんねえ♡♡♡♡)



(いくら自分の大切な教え子だとしても…♡♡
やれるチャンスがあるんだっいたらやらなきゃ損だろ…♡♡♡♡)

キラ

キラ

キラ

(やらない男がいたらそいつは男じゃないわな…♡♡♡♡
だって…何しても絶対起きないんだし…♡)

おん

おん

おん

おん

おん

おん

どんなにか

（もう何をしてでも絶対に起きないっていう自信があるからなんだってできる♡）

「ありがとうな…♡
今が俺にとっての教師生活のピークだ…♡」

ガッ

「こんな幸せをくれたお前に……ッ
今日も俺からのささやかなプレゼント♡♡♡
生中出した♡♡」

ビクッ

「……」

「……」 「♡♡♡♡♡」

「竹内、嬉しいだろ？♡
憧れの先生の精液、嬉しいに決まってるよな？♡
喜んでくれて先生も嬉しいよ♡♡」

「……」

「……」

ビクッ

「……」

「……」

十三

ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡



ルルル...

ぱんぱん
♡♡
ぱんぱん
♡♡
ぱんぱん
♡♡

すっ♡

「いくぞ♡遠慮なく今日も中に出すぞ♡
いくからな♡いくぞ♡いく♡いく♡
いくッ!!♡♡♡♡」

十



日中、空いてる特別教室に
竹内を大胆に運んで…

（うわ、相変わらず
尻でかつ…♡）

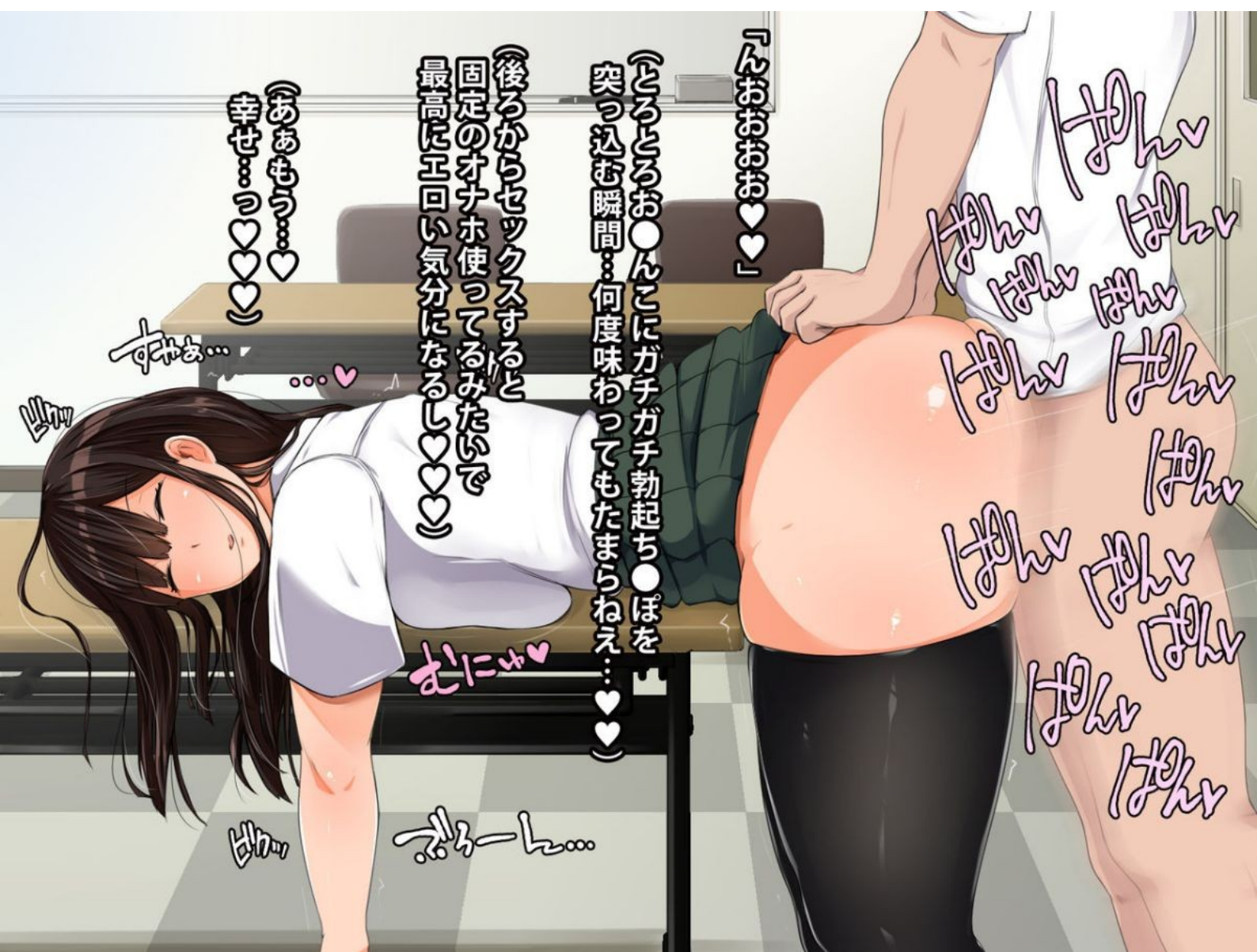
『竹内、今日も…っ♡♡♡』

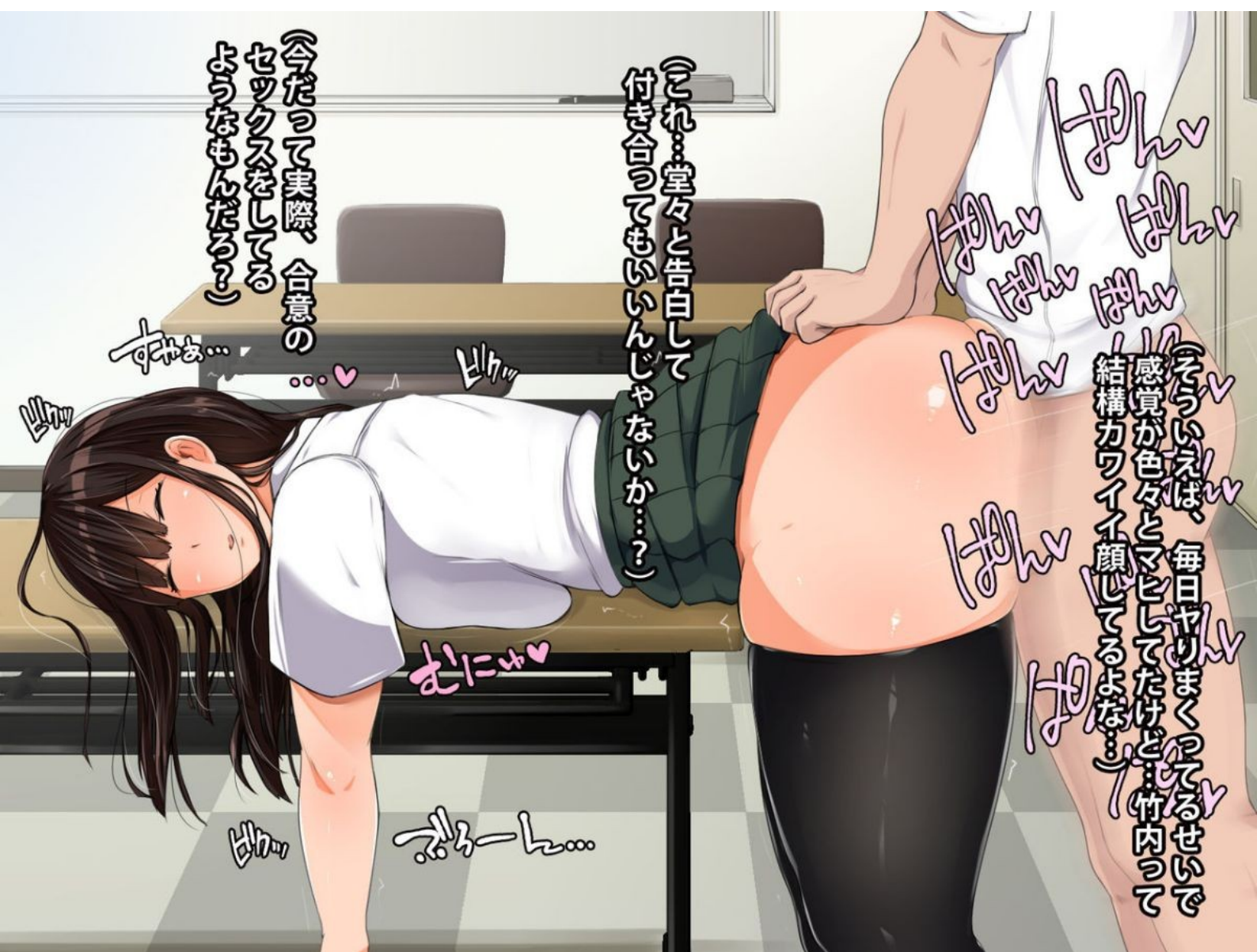
すずあ…
…♡

おにゃ♡

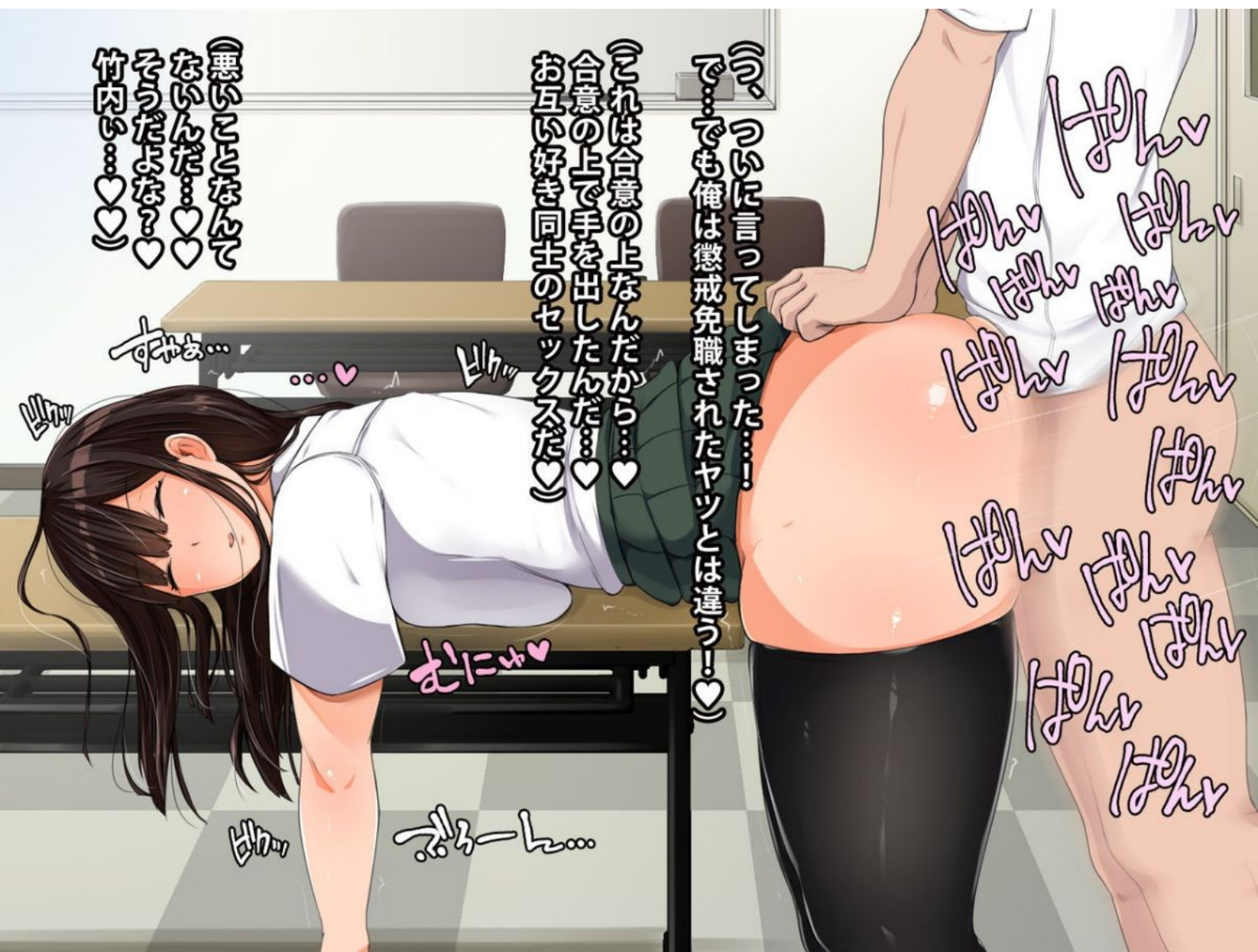
ぶーん…











（う... ついに言ってしまった...!!
で...でも俺は懲戒免職されたヤツとは違う!!♡）

（これは合意の上なんだから...♡
合意の上で手を出したんだ...♡
お互い好き同士のセックスだ♡）

（悪いことなんて
ないんだ...♡♡
そうだよな?♡
竹内い...♡♡）

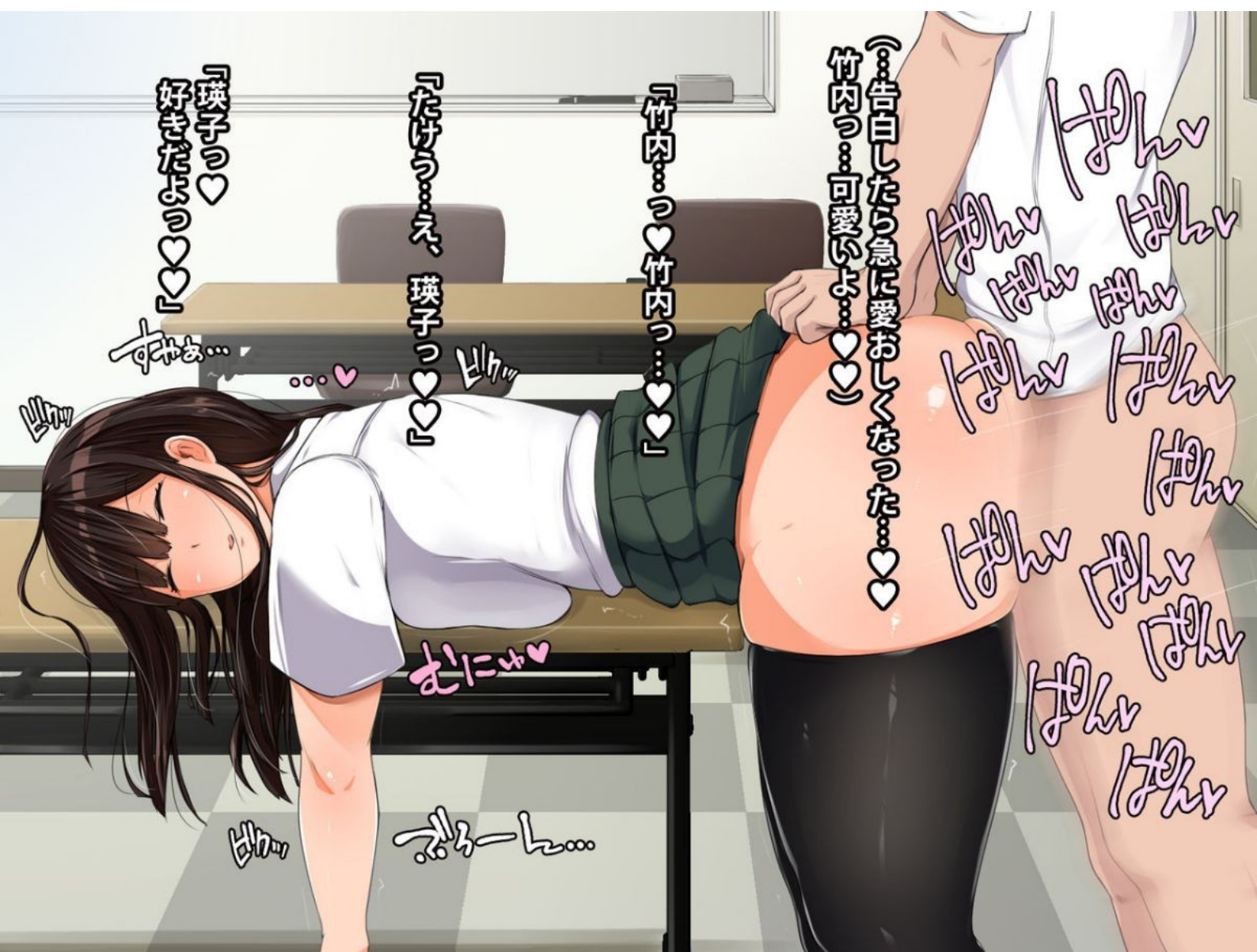
す...♡

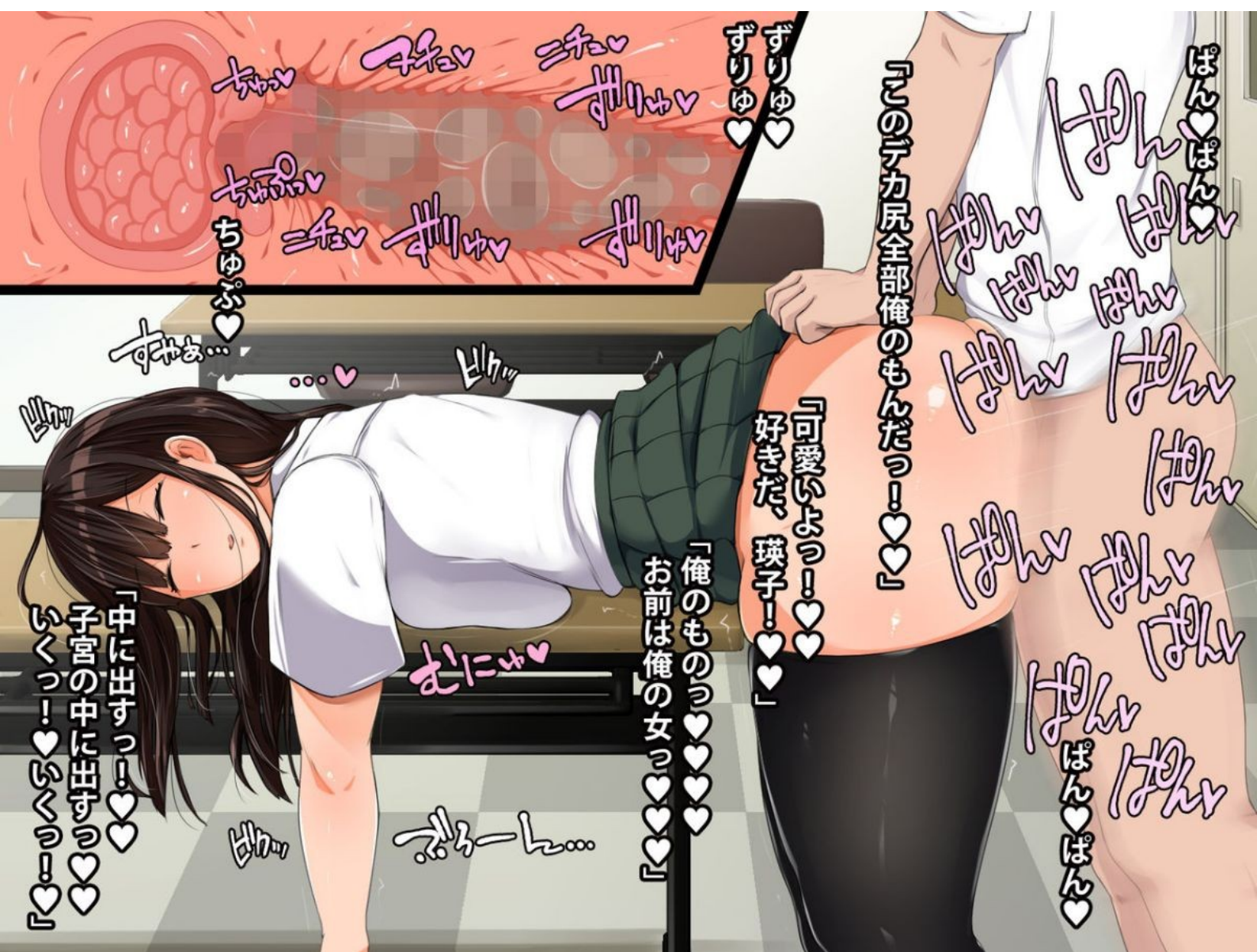
ビク...

おにゃ♡

ズクーン...

ビク...







こうしてどんどん思考も行動もエスカレートしていった…
気付けば、学校に行く目的が
彼女とエッチすることになっていた…

しかし、やはり学校でエッチをするのは
見つかった時のリスクが大きすぎる…
もっと安心できる場所で、人目を気にせずエッチしたい…

そう思った俺は、ついに竹内を自分の家に呼ぶことにした…

「なあ竹内、お前の志望校って県立大だったよな？」

「はい、そうです！
先生の母校ですよ」

「ハハ」

「ハハ」

「おっ、おっ、おっ」

「おっ、おっ、おっ」

「グダグダ」

「しゅっ、しゅっ」

「そっか。それで…その参考書とかあるんだけど
今度俺の家に来ないか？勉強も落ちついて教えられるし。
……眠っても大丈夫だし」

「えっ! いいんですか?! 先生の家?!
あっ...でも変なことしちゃだめですからね!」

「はは、バカ! 大事な生徒に手を出すわけないだろ!!」

「じゃあ、今週の土曜日の9時半に直接来てくれるか?
住所のメモを渡しておく」

「えくく...ありがとうございます...すっごく楽しみ...!」



車で迎えに行ってもいいんだけど
今までの経験上、歩いてこさせた方が
疲労で長時間眠りやすくなるみたいだからな…

性の力というのは恐ろしいもので…
おそらく、すでに俺は瑛子の親よりも
彼女の睡眠サイクルを熟知しているだろう…



そして、待ちに待った土曜日…

玄関のチャイムが鳴り

竹内瑛子が俺の部屋に上がってきた。



「あはは。なんか緊張しますね…」



「馬鹿なことを言うな、勉強しに來ただけだろ？」

まっ
（私服の教え子がっ…♡
お、俺の家に…♡
やっぱりおっぱいデカすぎ…♡♡）

（Tシャツで巨乳が強調されてるし…♡
やりたい…♡やりたい…♡♡♡）







「ああ〜…♡この後のこと想像してたらマジで勃起してきた♡♡」

「…難しいなあ……………」

うと…

うと…

「……ふあ…」

（机の下見られたら終わるくらい勃起してるわ俺…♡カウパーで大きいシミできてるだろうな…♡♡）

うわ

ふわ

「……………」

（くそっ…そろそろ寝ろよ…♡そろそろ限界だ…♡♡気を抜くと襲っちゃいそうだよ…♡♡……………おっ？）







どの時間に家に呼べば都合よく眠ってくれるのか、
計算した上で家に呼んだのだが…ビンゴ…!!
完璧なタイミングで眠ってくれた…!!

ここから先は、お察しの通りで…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…

ぐいぐい…



「瑛子っ♡瑛子おっ♡♡」

「んっ…♡♡」

『うおおおお背徳感がヤバい……!♡』

「アハハハ…」

（よく寝る教え子をわざわざ家に呼んでセックスとか…♡エロ漫画の世界か♡♡）

愛



...

Falls Falls

A white button-down shirt is shown from the chest up. It is covered with numerous pink, hand-drawn symbols. These symbols consist of three parallel diagonal lines (like a stylized 'H' or a comb) with a small heart at the bottom. There are also two larger, solid pink hearts. One heart is located near the top left collar, and the other is near the top right collar. The symbols are scattered across the front of the shirt, with a concentration on the lower half. A person's arm is visible on the left side, reaching towards the shirt.

「お、お前嬉しいだろ！♡
信頼してる俺とセックスできて♡」

「俺のこと好きだもんな！♡
さっきもドキドキしてたろ？♡♡」

「お、俺もお前のこと好きだからっ…♡
…き、聞いてくれ…っ♡♡♡」

ぐいぐい…っ♡

ぐいぐい…
ぐいぐい…
ぐいぐい…

ぐいぐい…
ぐいぐい…
ぐいぐい…
ぐいぐい…
ぐいぐい…
ぐいぐい…
ぐいぐい…
ぐいぐい…
ぐいぐい…
ぐいぐい…

ぐいぐい…
ぐいぐい…



「え、瑛子…っ♡
俺はお前と結婚したいー!♡」

「んえっ…♡」

「マジで子供できてもいいよ…♡
そしたらすぐ結婚しよう!♡
っていうか、そろそろ赤ちゃん
できてるんじゃないのか?!♡♡」

「うーん…」

「もう何百回も中出ししてるし
できてもおかしくないだろ!♡♡
お前、ちゃんと生理きてるか?!♡♡
おい、きてないだろ?!♡♡♡」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

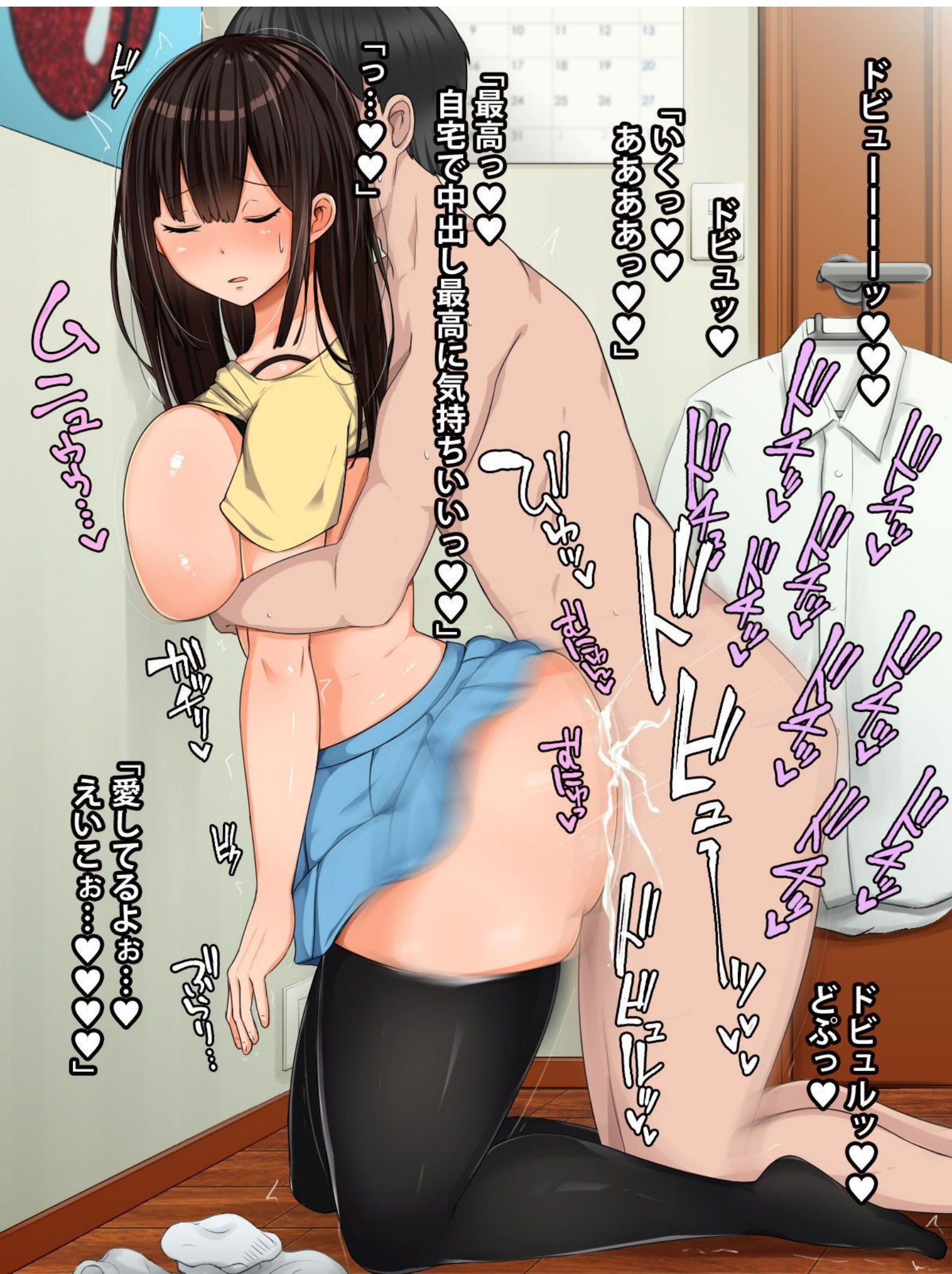
「ん」

「ん」

「ん」

「ん」

「な、なあ♡できてるよなっ…?♡
俺とお前のっ…♡♡
あ、赤…あか…あ、あああっ!!♡♡」



2
時間後…

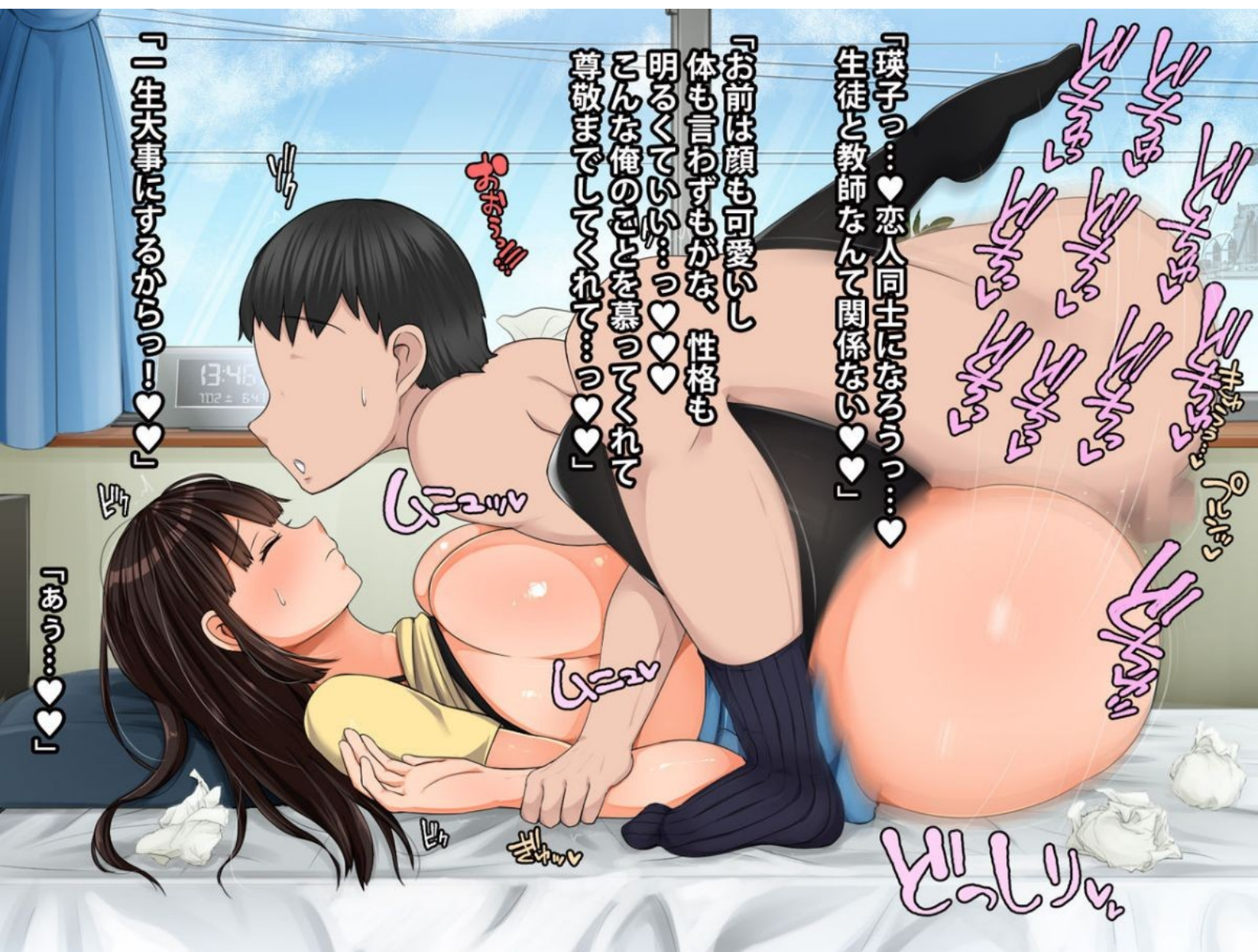


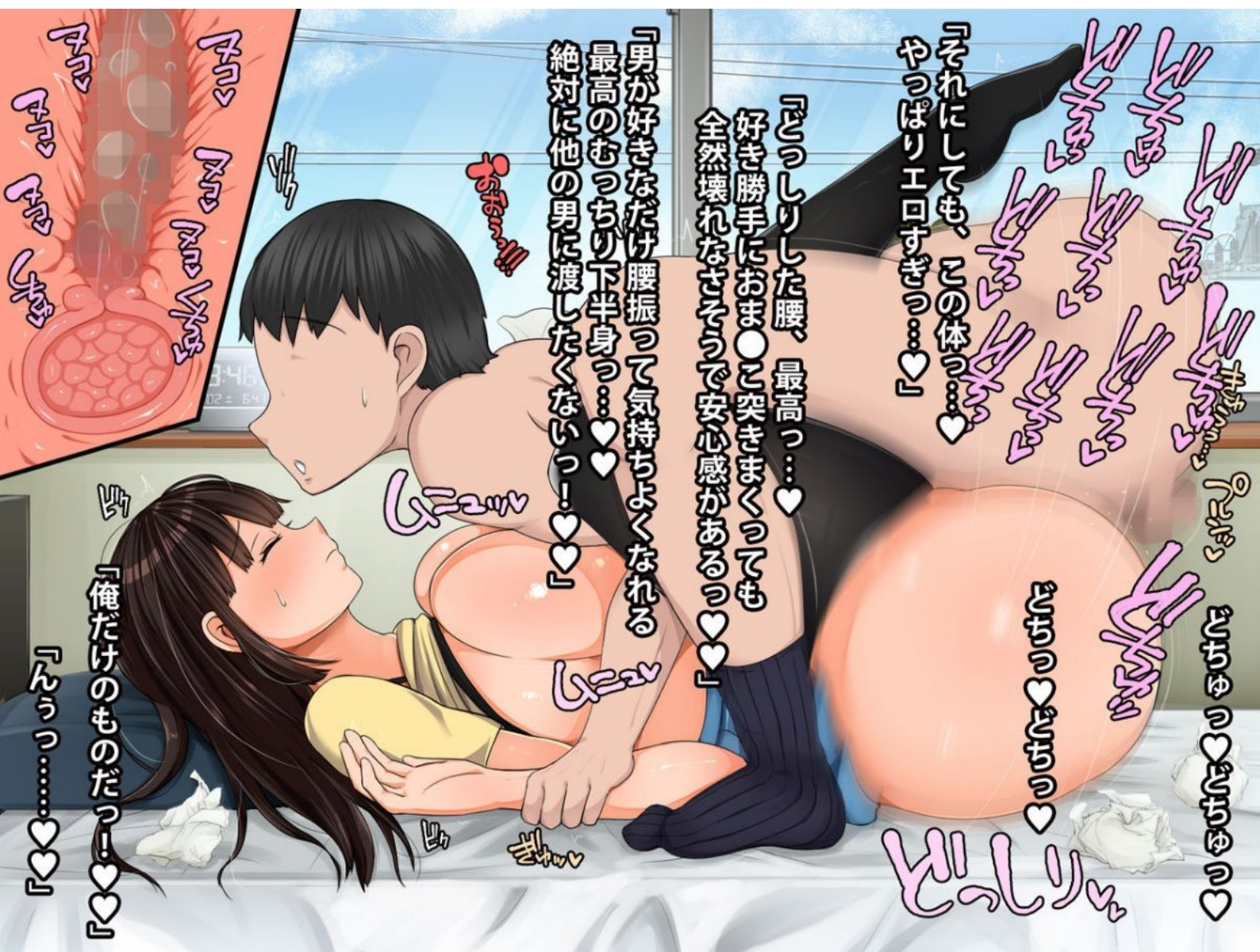
「瑛子っ…♡恋人同士になろうっ…♡
生徒と教師なんて関係ない♡♡」

「お前は顔も可愛いし
体も言わずもがな、性格も
明るくていい…っ♡♡♡♡
こんな俺のことを慕ってくれて
尊敬までしてくれて…っ♡♡♡」

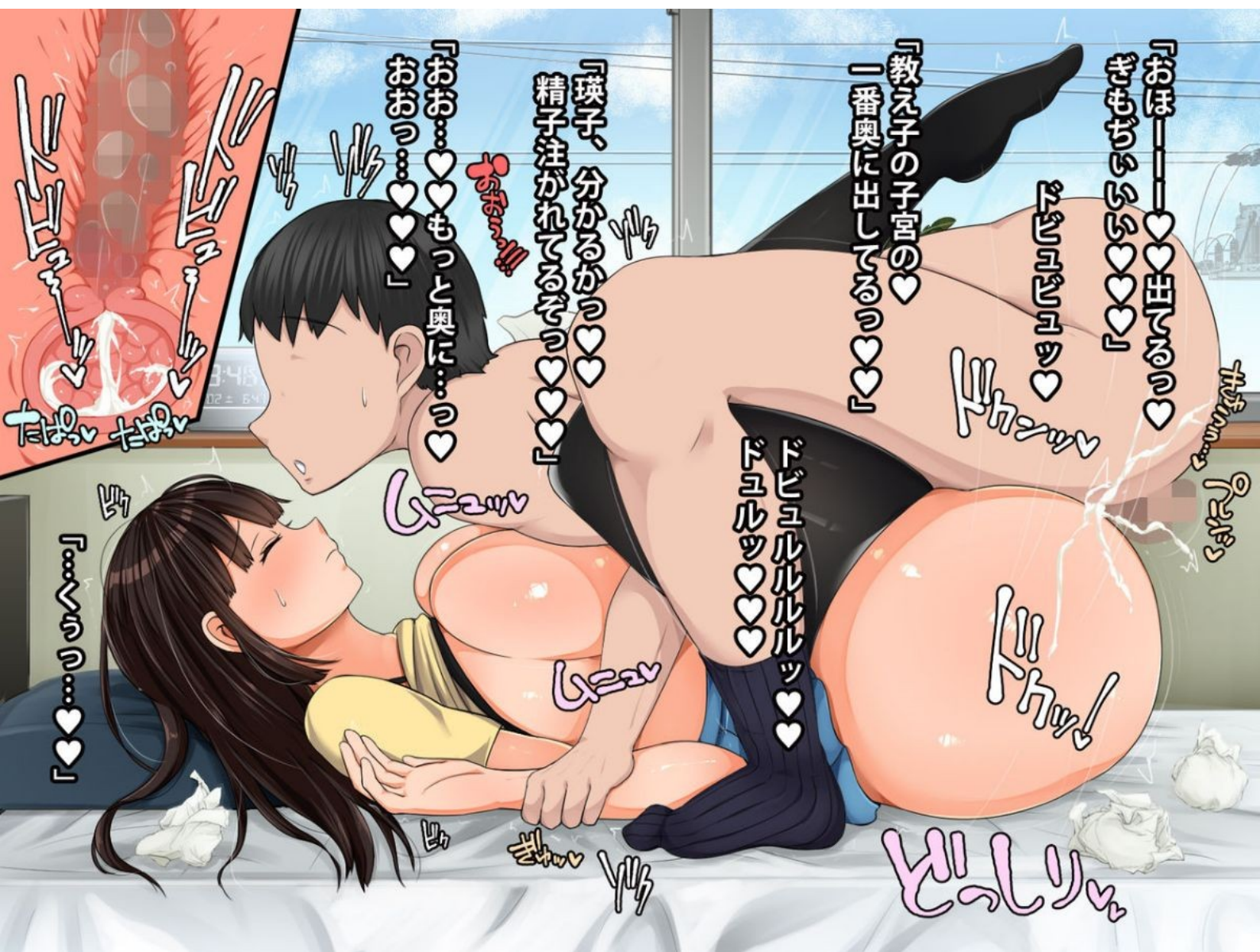
「一生大事にするからっ♡♡♡」

「おっ♡♡♡」









さらに2時間後…





「うんうん♡♡」

♡ニム♡♡

「うん♡♡♡」

「また入ったぞ...♡♡♡♡♡」

♡チム♡♡♡

♡チム♡♡

♡チム♡♡

♡チム♡

♡チム♡



自分の教え子が、好きな顔と体と性格…♡
…こんな奇跡ってあるか？♡♡
なあ瑛子…♡お前、俺のために
生まれてきたんだろ？♡♡

のっ♡ のっ♡

「そっなんだろ…？」
ああ…そっだ、絶対そっ…♡♡

「絶対そっだ…♡♡♡♡」

っ♡

っ♡



「ああ〜可愛いっ!♡♡愛しすぎる…♡♡
俺のために生まれてきたなんて…♡♡
本当に可愛いよ…♡♡♡♡」

「これから先の人生…
俺がお前の全てを愛してやるからな…♡♡」

『だからいっぱいエッチしよう…♡
子供何人できたっていい♡♡
俺が全員幸せにしてやる♡♡♡♡』





「そ、そうなんだなっ♡♡♡」

「んっ♡♡♡」

のっ♡

のっ♡

「ふ、ふなせへるからなっ♡♡♡」

「んっ♡♡♡♡♡」

「一緒にこうなっ♡♡瑛子っ♡」

うっ♡

うっ♡

うっ♡

うっ♡

うっ♡

うっ♡

うっ♡

うっ♡











竹内瑛子、帰宅後――



…うん！今日もたくさん勉強できた！

先生の家でも寝ちゃったけど、
起きるまで待っててくれて
こんな夜まで付き合ってくれた…。

あんな優しくていい先生、他に絶対いないよね…

っわ

んぎ

たふん
んぎ

んぎ

んぎ

たふん
んぎ

ふふ…今日も優しくてカッコよかったな…♡♡♡
先生、彼女とかいるのかな…？♡♡♡



……そういえば最近、寝てる時に
いつも先生とシてる夢を見ちゃうんだよね…♡

んわ

んぎ

んぎ
んぎ

んぎ

んぎ

んぎ
んぎ

……私って実はエッチな女の子なのかな…♡











































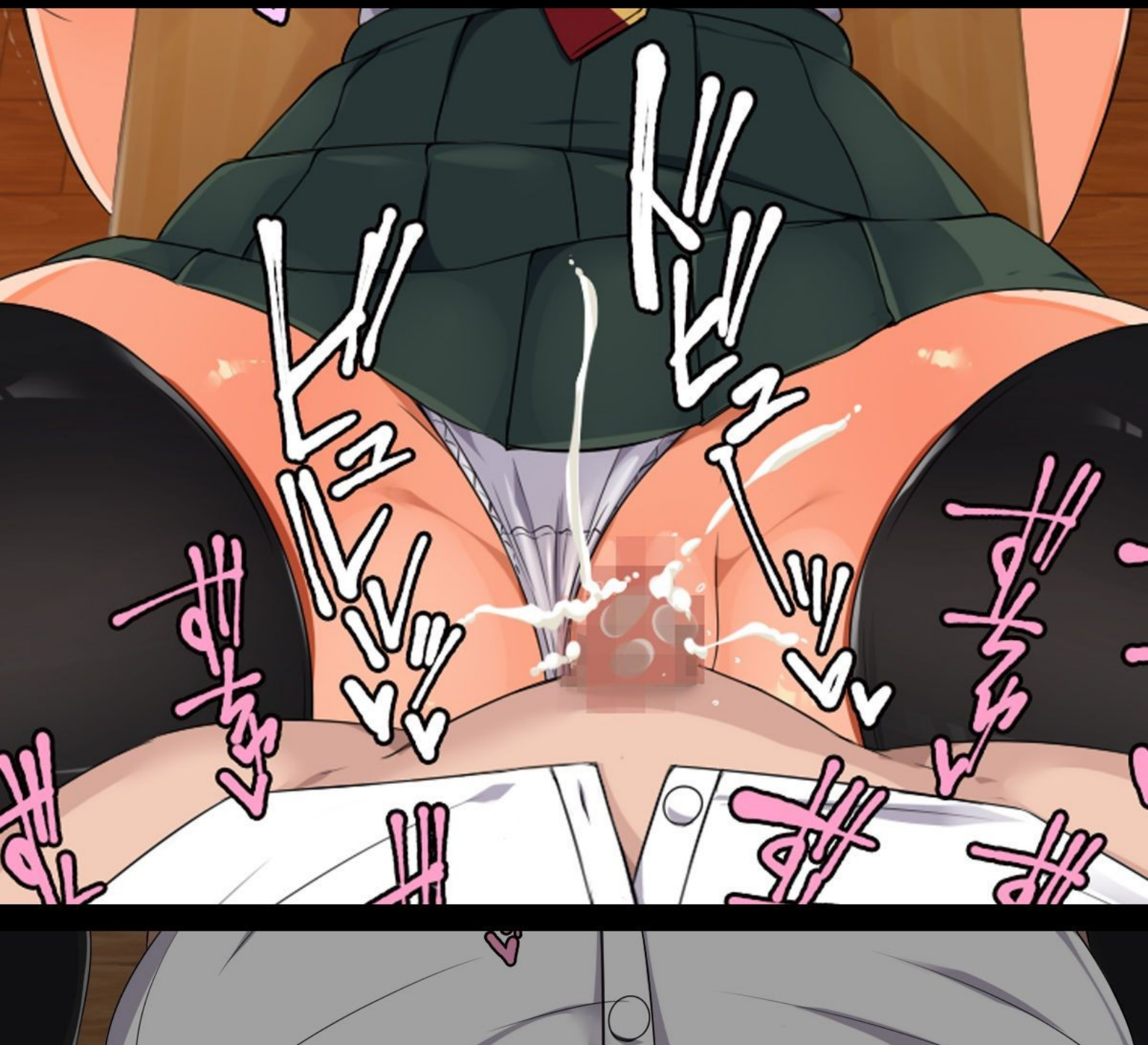










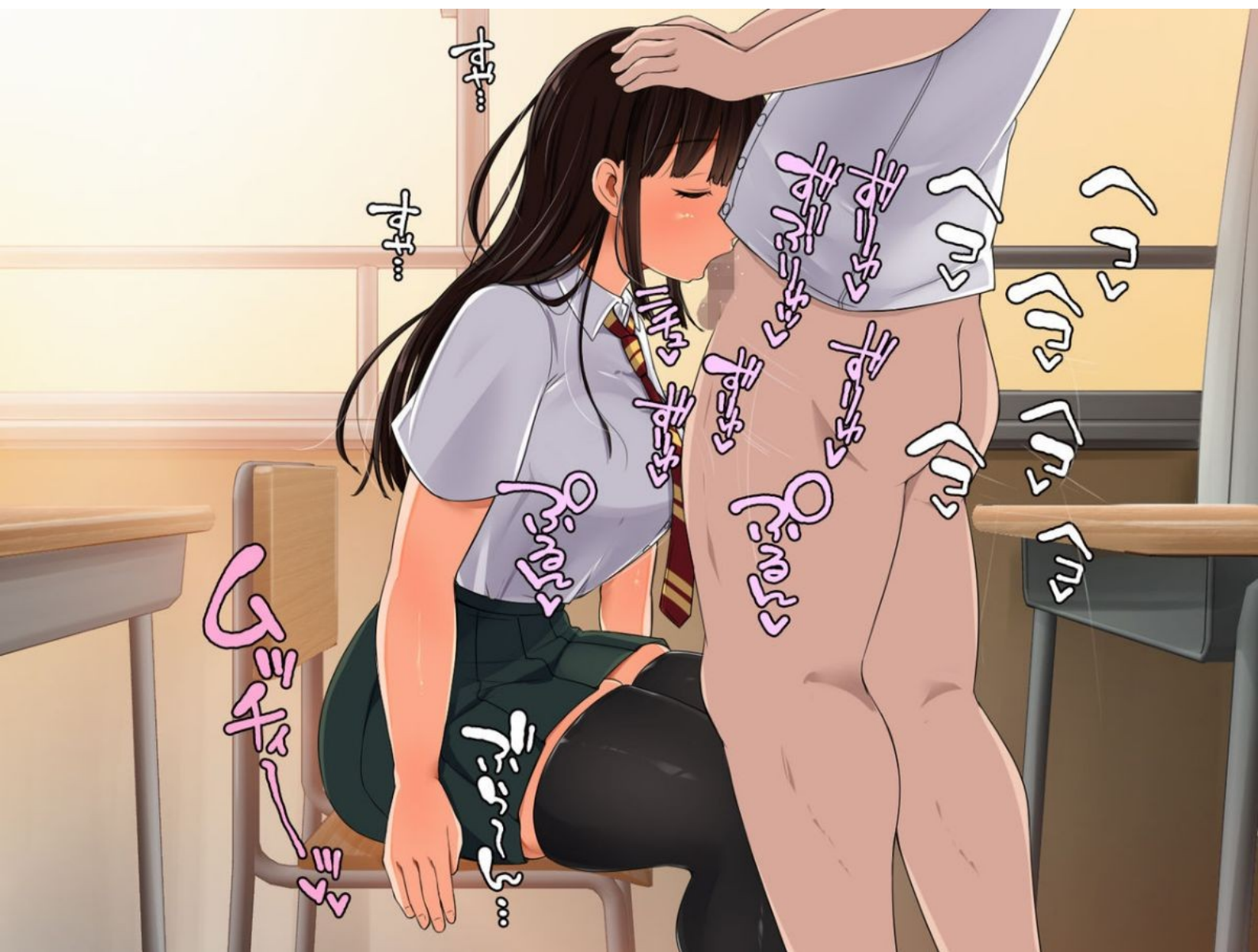


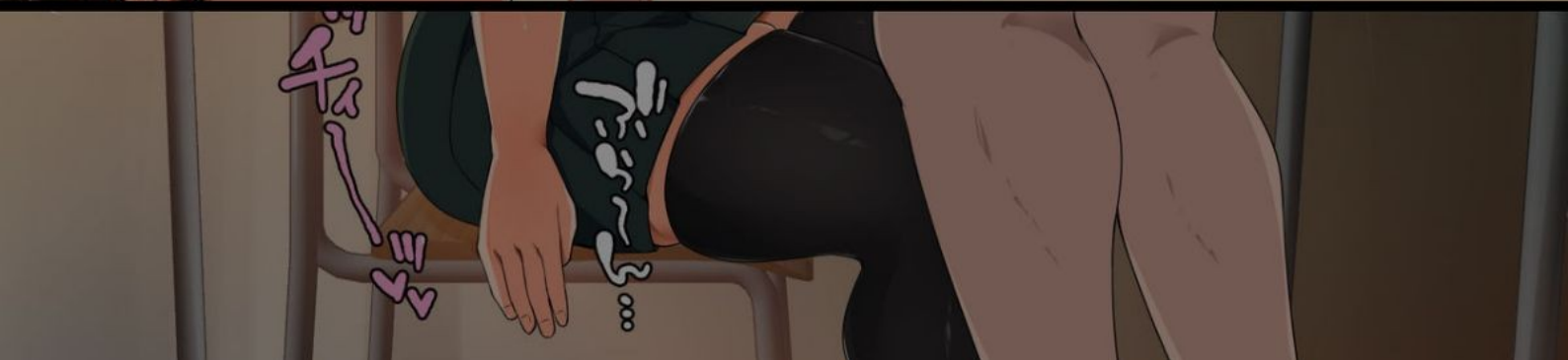
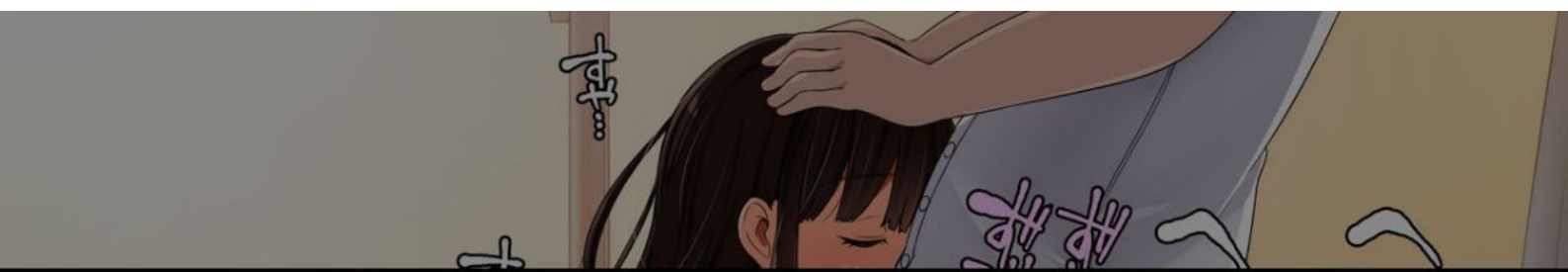






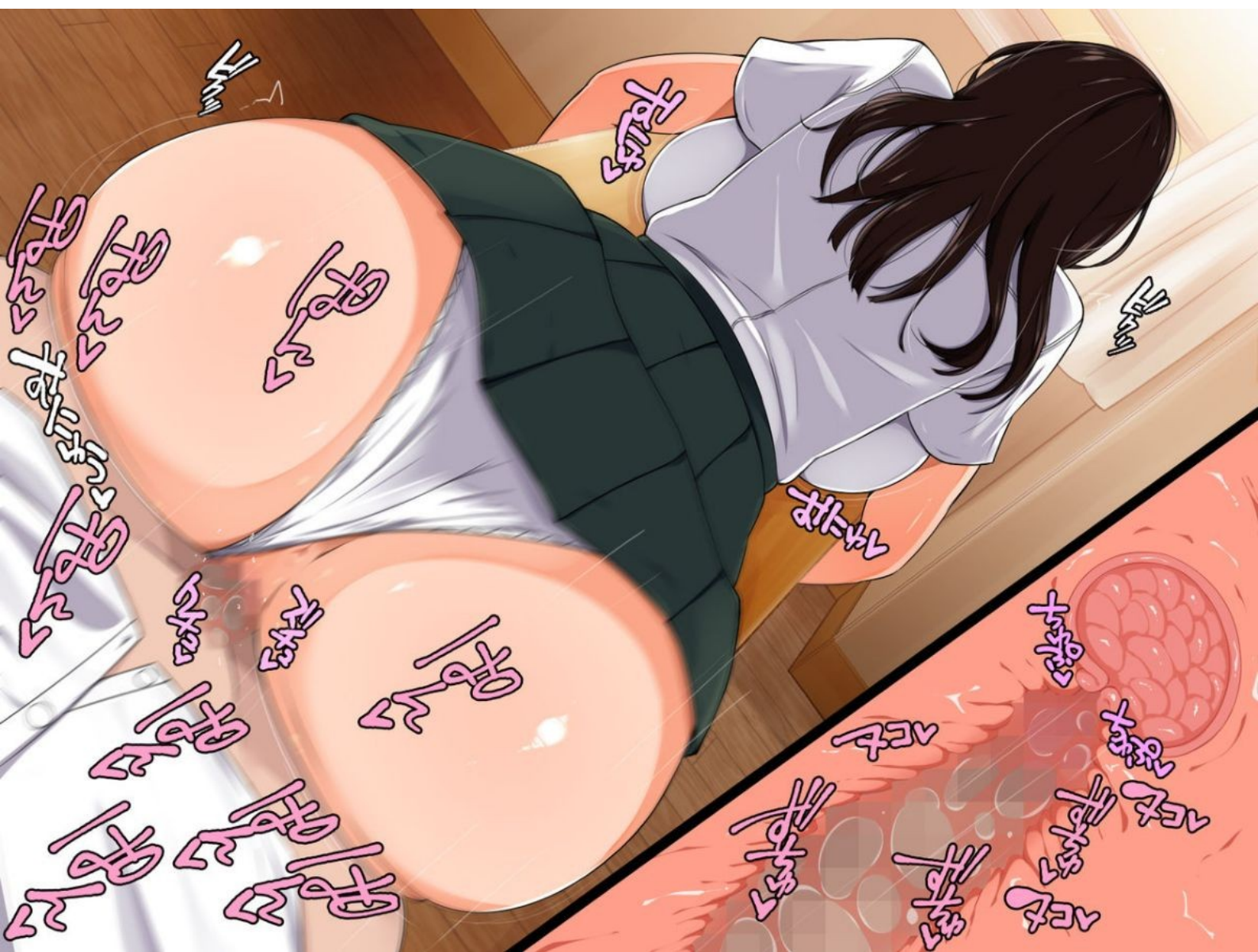


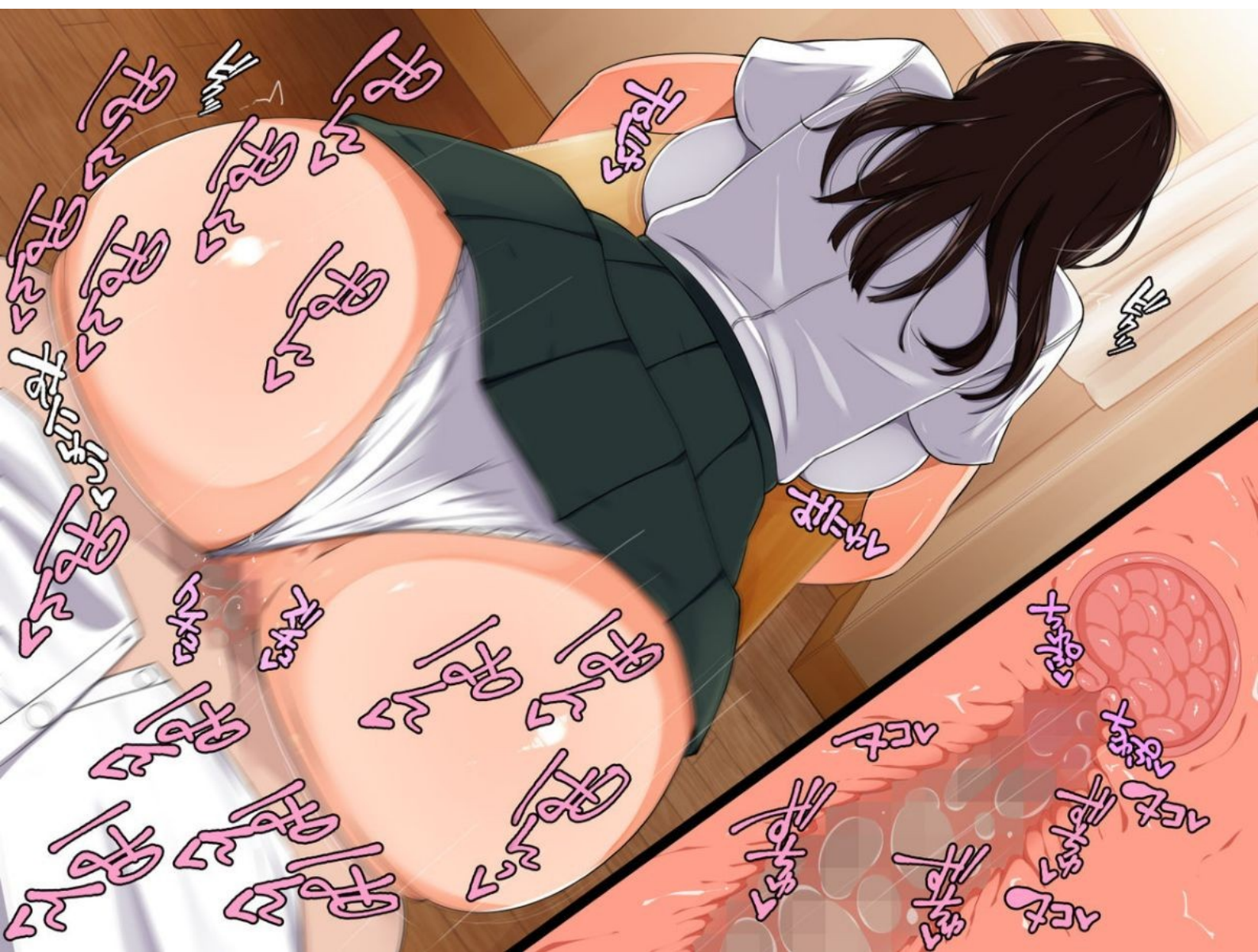


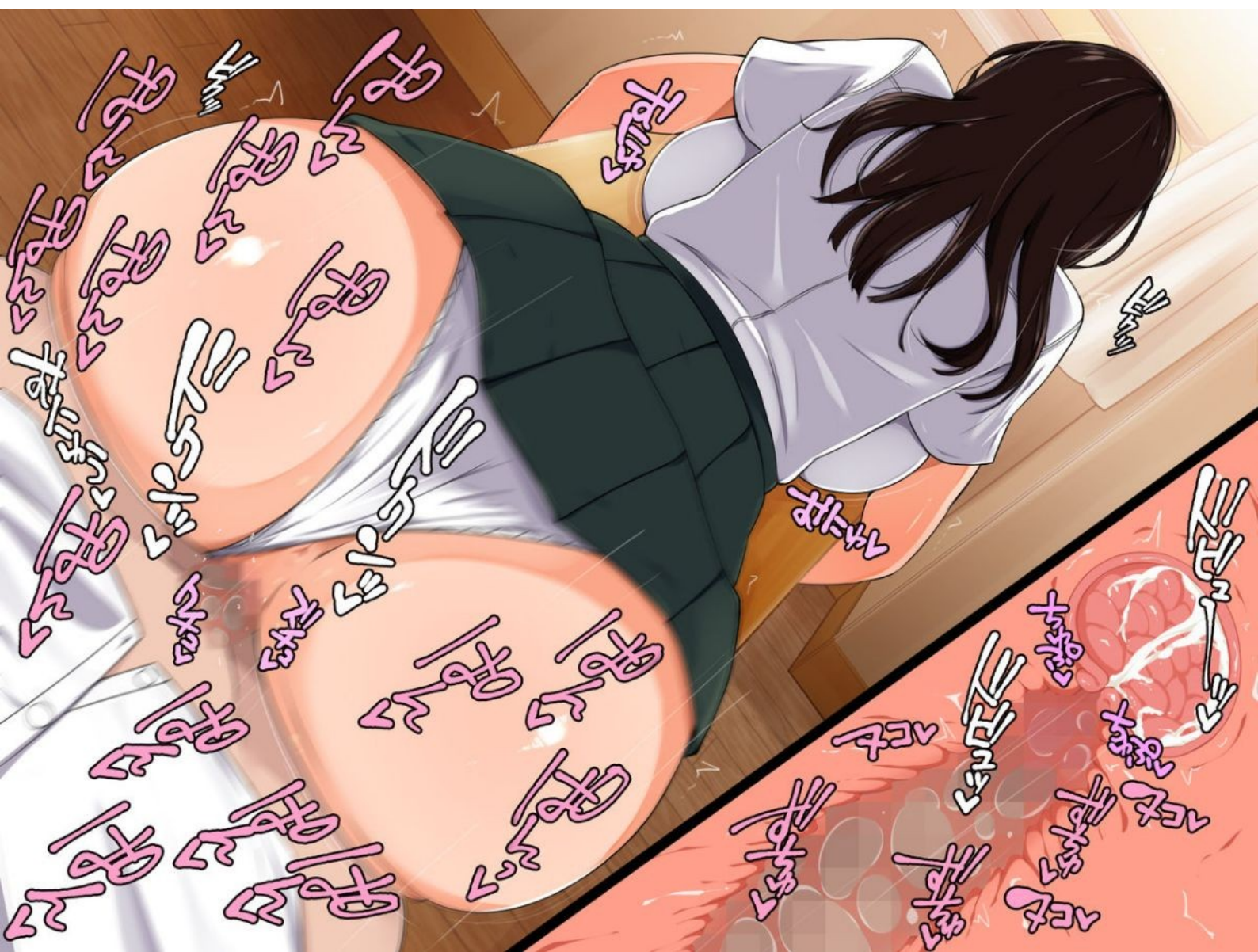
















はぁはぁ

はぁはぁ

はぁ

はぁはぁ

はぁはぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁはぁ

はぁ

はぁはぁ





ミミミミミミ
フェス
フェス
フェス

ミミミミミミ
フェス
フェス

フェス

フェス

フェス
フェス
フェス
フェス

フェス

フェス

フェス

フェス

フェス
フェス
フェス
フェス

フェス
フェス
フェス
フェス





